

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	道雪会	福岡県糟屋郡新宮町	木島 孝之	日本建築史 日本城郭史 九州大学大学院助教	道雪会第9回文化講演会【宗茂最大のライバル 秋月種実】	令和7年5月25日(日)
	講演内容			事業成果		
副題～益富城から見た種実の対豊臣戦略～ 益富城に籠もっていた秋月種実は益富城を破却して古処山城に逃れた。秀吉は付近の人々に命じてかり火を焚き、さらに障子や戸板を集めて城を修復したように見せかけ、いわゆる「一夜城」を築いて古処山城に籠もる秋月父子を驚かせた。降伏へと導いた状況を城郭の専門家として面白く攻める側、守る側から見たお話を頂き非常に有意義な時間となりました。			当日は250席を設けていましたが、開場と同時に座席が満杯となり地域の方々の関心が非常に高いことを関係者として実感致しました。 招致活動も9年目に入り、地道な活動を続けた結果と思い10年目の節目に向けて更に会員一同活動して参ります。			
2	古高取を伝える会	福岡県直方市	永末 修策	豊前吉右衛門藩元	古高取を伝える会定期総会記念講演「陶工として生きる」	令和7年5月18日(日)
	講演内容			事業成果		
1984年に開窯された、豊前吉右衛門窯は、400余年の長き歴史を持つ、高取焼や上野焼と比較するとその歴史は極めて浅いが、その作品は、高取焼や上野焼とは、決してひけをとるものではない。今回の講師をされた2代目吉右衛門永末修策氏は、天才肌の父の技術を学びながら、父を超える独創性を追求するためにメキシコで10数年、陶芸だけでなく、デスクワーク等様々な仕事を体験し、帰国後は、父親と作陶を始めた。特に父親の彫染付の線刻と絵付け技法に修策氏独自の幾何学模様を取り入れ、類まれなる技法のさらなる展開が深まった。 また、素焼きのカップ、彫染付を施したカップ、釉薬を施した作品とご自身ご愛用の道具を持参され、その制作過程の説明がなされた。			真摯に作陶に励む姿、情熱は、地域づくりを真剣に取り組む人々の直向きな姿と相いれるものであった。地域の活性化という観点からも、貴重な体験となった。実習がなされたことで、作陶をされる方の関心が深まった事や、地域の宝が生み出される、この地域に誇りを持つ住民が増えることが、私どもの活動の原点であることを強く感じさせられた。			
3	一般社団法人おいしい防災塾	兵庫県神戸市	①山本 正実 ②室崎 友輔 ③山住 勝利 ④田中 達也 ⑤平田 圭 ⑥木場 佳壽子 ⑦井上 燕子 ⑧塩田 菜月	①NPO神戸教員支援Teachers 監事 ②神戸常盤大学保健科学部講師 ③NPOふたば震災学習ラボ室 長 ④神戸常盤大学教育学部講師 ⑤神戸市青少年育成協議会高丸支部副支部長 ⑥みんなのこども食堂にじいろ代表 ⑦一般社団法人兵庫県音楽療法士会副理事長 ⑧兵庫県立大学学生災害復興支援団体LAN元副会長	安心安全なまちづくり ～私達にできること～	令和7年4月24日(木)
	講演内容			事業成果		
地域でボランティア活動をしている団体に活動の内容等を発表し、その内容を講師の皆様へ助言等を頂いた。助言内容は、活動の場を拡大のための助言や、スタッフ増員の為の助言等であった。講師と団体が繋がる場を設けた事で、横の繋がり、縦の繋がりを持つ事ができる事業だ。当日、活動発表を予定していたカラフル北神戸の益洲佳氏が体調不良で欠席となったのが残念です。講師予定の尾崎扶美子氏の領収書の不備により、当日は講師で登壇頂きましたが、助成外で収支決算いたしました。			神戸市垂水区長が2時間以上、列席くださり、すべてのボランティア活動を聞いてくださった。取材]COMが来てくださり、当日の取材と、活動団体の活動を取材して下さることに。取材を受けること、団体の活性化にもなるし、参加者の増員、スタッフの増員にも繋がる事になる。それは、まちづくりを活性化する事に繋がる。			
4	NPO法人共働のまち大野城	福岡県大野城市	田瀬 和夫	SDGパートナーズ有限会社代表取締役 CEO	大野城市コミュニティ活動応援ファンド事業令和6年度実施報告会	令和7年6月7日(土)
	講演内容			事業成果		
講演テーマ「SDGs時代の持続可能なまちづくりを考える」～引き続き必要不可欠な多様性・公平・包摂(DE&I)～ DEI(多様性・公平・包摂)はSDGsの目標と深く関わり、個人の違いを尊重し活かすことで、組織の強化にもつながる。中でも「Equity(公平)」の重要性に触れ、平等と異なる支援のありかたに気づかされ、地域活動の中でもDEIを意識し持続可能な社会の実現に向けそれぞれ行動を起こしていくことが重要である。			地域活動団体や市民の方に参加していただき、SDGsやDEI(多様性・公平性・包摂)についての理解を深める貴重な機会となった。参加者からは「自分事として捉えられた」「今後の地域づくりにも活かしていきたい」といった声があり、地域全体で持続可能なまちづくりを目指す土台を築くことができたのではないかと感じた。			
5	本のソムリエ団長・世話人会	福岡県飯塚市	本のソムリエ団長	教育関連講演・読み聞かせ、経営セミナー講師、翻訳家、写真家等	読書で広がる世界 講話や読み聞かせ活動を通して	令和7年6月18日(水)～20日(金)
	講演内容			事業成果		
本のソムリエ団長さんによる保育園・学校訪問による読書活動及び講演地域の皆様への読書活動及び講演 テーマ「読書で広がる世界」—講話や読み聞かせを通して— 二幼稚園、三小学校、一中学校では、団長さんオリジナル世界旅行記動画、絵本「けいけい」はやく大きくなりたい」「もったべるのだから?」等を実態に合わせて、電子黒板に拡大したり、じかに見せたりしてハイブリット読み聞かせをされた。本を題材に夢を持ったり、夢を叶えたりするために努力することや、友達、先生、家族を助けたり、やさしくしたりすることを伝えられた。登場人物の気持ちに合わせた読み方や、子どもとのやり取りで子ども達の集中力、興味関心を非常に高められた。特に絵本「もったべるのだから?」では子ども達を十分に惹きつけられ子ども達の主体的な発表を多く引き出された。地域の皆様への講話においては、「団長と行くロンドン!」で団長のロンドン旅行の動画と講話をいただいた。また、行われたばかりのオーストラリアの旅の話をされ、有意義であった。			3日間という短期間に1,041人の方が参加され、じかに団長さんの話を聞くことができた体験が、大きな成果の一つと考える。子ども達は「けいけいさんの話を聞くのが好き」「夢をあきらめない」「本を読むのが楽しかった」「団長さんにまた来てほしい」「団長さんのように世界を旅行したい」「たぐさんの本を読みたい」など話していた。読書の興味、関心を高めたことや自己肯定感を高め、夢を叶えることや自分や人を大切にすることを考える機会となったと思われる。先生方は、「より子どもの意欲を高める読み聞かせについて考えさせられた」地域の皆様も、「動画が世界を広げてくれた。団長さんの話でほっとしました。」と話された。素晴らしい世界の文化に触れ、心豊かに学び続けることの楽しさを味わわれたようだ。保育園、学校、地域の皆様より「また来てほしい」という強い要望をいただいた。今後も本のソムリエ団長の読書活動を継続したいと考える。			

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	特定非営利活動法人 奈良能	奈良県奈良市	①佐藤俊之 ②山中雅志 ③森山泰幸 ④田中直樹	①公益社団法人 能楽協会 ②公益社団法人 能楽協会 ③公益社団法人 能楽協会 ④公益社団法人 能楽協会	奈良発祥の無形文化遺産である能楽の普及による地域活性化	令和7年7月12日(土)
	講演内容		事業成果			
1.佐藤講師による能楽概論。能楽は世界に誇る日本の芸能である。 2.能楽と奈良の深い繋がりについて。能楽は奈良発祥の芸能であり、郷土の誇りである。 3.能の職分と流派、さらにシテ方の「上掛かり」「下掛かり」について、実演を交えての講義。 4.能「杜若」見どころ聞きどころ。 5.能の小書きについて 6.この後、受講者には実際に使う楽器を手にとってみていただく。受講者は少人数で入れ替わり、森山講師、山中講師、佐藤講師、田中講師を巡回する。 7.同時進行で実際に舞台上で使う能楽の面、衣装、持ち物などを舞台上に展示。受講者に間近に見ていただく。受講者からの質疑応答も受けた。		能楽は日本の文化遺産であり、その発祥の地である奈良の誇りである。奈良の能楽の特徴は他の地域と異なり、庶民に広く浸透してきたことで、庶民が「おんまつり」や「新御能」を支えてきた。本講座は能楽に依ってこれからの奈良を活性化するため、能楽の普及と良質な観客の育成を目的に行った。本講座は舞台を演じる能役者が、自分の言葉で受講者に語り、指導するのが特徴で、実際に舞台上で使う道具類を手にとってもらうことで、より身近に感じてもらえたようで、大変好評であった。				
7	カッキークラブ交流会	奈良県五條市	岩出景子	野の花文庫・野の花赤ちゃんルーム主宰	みんなでわらべうたを楽しもう(秋編)	令和7年7月27日(日)
	講演内容		事業成果			
午前:乳幼児親子においては、0歳児から4歳児までの異年齢の子供たちでしたが、同じわらべうたでも、それぞれの年齢にあった楽しみ方を指導しながら進めてもらえ、参加者も子供たちとわらべうたを通してスキンシップをはかっている様子だった。 午後:こども園先生やおはなし会のメンバー、また新聞の記事を見て他市で読み聞かせ等の活動をされている方の参加があり、参加者同士が親子になり、わらべうたを先生の指導のもと、実践して、五感を育てる楽しみ方を学んだ。また、季節に合った絵本も多数紹介してもらえた。		午前:乳幼児親子においては、これまでの冬編、夏編にも参加された親子参加があり、子供さんの成長とともに、更にわらべうたを楽しんでいる様子でした。初めての参加者も、笑顔でわらべうたを楽しんでいる様子で、今後も子供とスキンシップを図る手段にしたという声が開かれました。 午後:参加者が親子になって実践をしたり、同じわらべうたを繰り返し学んだり、季節にあった絵本も沢山紹介してもらえ、2学期に早速実践できるようにしたいと思えた。こども園の先生方は、熱心にメモをとられ、終了後も先生に質問もされていた。				
8	一般財団法人淡路島くうみ協会	兵庫県淡路市	杉井 志織	園芸家	第2回淡路島くうみ講座	令和7年10月4日(土)
	講演内容		事業成果			
当講座は、当協会の主たる事業として、島内外の人々に、淡路島のすばらしい自然、歴史、文化等を広く知っていただくとともに、淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりを目的として年数回開催している。 今回は、お気楽園芸のススメ暮らしは楽しい方がよい〜と題して講演いただいた。		終了後のアンケート参加理由をみると興味のある内容と講師が良かったことによる参加者が7割以上で、ほとんどの参加者に満足いただけた講座となった。 また、60代以上の高齢者の参加者が約8割と多い講座であるが、50代以下の方も2割を占めている。初参加も24%であり、新たな参加者層の開拓につながったことに加え、園芸に関する知識を深めていただけたと評価している。 以上の結果を踏まえ、今後も、情報配信を行うイベントとして多くの方に参加いただける講座を目指すと同時に、引き続き当講座の目的である淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりに向けた講座を開催していきたい。				
9	公益財団法人えひめ地域活力創造センター	愛媛県松山市	①東 信史 ②板垣 義男 ③菊間 彰 ④山崎 琴乃	①有限責任事業組合まちとごと総合研究所 共同代表 ②一般社団法人えひめ暮らしネットワーク 代表 ③一般社団法人をかしや 代表理事 ④愛媛大学社会学部	第4回えひめ地域活力創造フォーラム『聴くからはじめる地域づくり〜聴いて、話して、繋がる〜』	令和7年10月11日(土)
	講演内容		事業成果			
(1)基調講演 有限責任事業組合まちとごと総合研究所共同代表の東信史氏による「傾聴力」をテーマに講演を行った。 参加者が3人1組のグループに分かれ、チェックインによるアイスブレイクから始まった。東氏は、地域づくりの困りごとが起る背景や、聴くことで変化が生まれた地域の事例等を紹介した。続いて、「聴く」を意識したミニワークを実施し、参加者は実践を通じて理解を深めた。最後に東氏は、聴くことを頑張りすぎず、相手に好奇心を持って接してほしいと話され、講演は終了した。 (2)ディスカッション 各地で活躍するファシリテーター、地域活動に参加されている方によるディスカッションを行った。また、Googleフォームを通じて参加者から投稿された意見や質問に対し、登壇者がそれぞれ回答を行った。		フォーラム後のアンケートでは、「大変満足」「満足」の割合が9割以上と高い評価が得られた。特に、聴くことの大切さについての再認識や具体的な傾聴テクニックを学べた点や、「今後の活動に大変重要になると思う」「苦手意識があったが、改めて頑張ろうと思った」といった今後の活動への意欲を高める感想が数多く寄せられた。				
10	奈良県女性経営研究会	奈良県奈良市	逢香	書道家	奈良県女性経営研究会設立40周年記念事業	令和7年10月15日(水)
	講演内容		事業成果			
妖怪書家の逢香氏は幼少期からの豊富な経験を背景に、変体仮名や草双紙から着想を得て妖怪画の制作を開始。妖怪を日本的な思想や社会に馴染めない人々の感情の具現化として捉え、共感を創作の核とする。また、一般社団法人モノモンを設立し、公共事業を展開。児童養護施設で定期的に墨アート教室を開催し、子どもたちがオリジナルの妖怪を描くことで内面的な痛みを表現・昇華させるセラピエー的活動を実施している。子どもとのコラボ作品は東京大手などで展示販売し、収益の一部を本人達に還元。今後はこの墨アートプロジェクトの継続・拡大と国内外での個展開催を目指す。		奈良県女性経営研究会40周年記念事業として開催された本講演会は、芸術性と社会貢献活動の両面で高い評価を獲得。妖怪書家・逢香氏の創作活動と、児童養護施設での墨アートを通じた子どもたちへの支援の意義を聴衆に深く伝えました。参加者からは「日本の在り方を振り返る貴重な機会となり有意義だった」との声が寄せられ、聴衆の心に響き、生き方を考えるきっかけを提供する意義深い時間となりました。本事業の成功を通じ、今後も女性の活躍を応援し続ける奈良県女性経営研究会でありたいという決意を新たにいたしました。				

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
11	公益社団法人奈良まちづくりセンター	奈良県奈良市、斑鳩町	①大槻旭彦 ②清水真一	①奈良ソムリエの会 ②徳島文理大学文学部文化財学科 教授	文化的景観 普及啓発事業	令和7年9月21日(日) 令和7年10月5日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>①高畑地域の文化的景観の現地講座:ウォーク参加は30名。志賀直哉旧居～藤間家～新薬師寺金堂跡等のルートを1時間かけ大槻氏の案内で歩いた。奈良高畑基督教会で開催した大槻氏の講演会は40名が参加。日本書紀の記述や万葉集に謳われた春日社、藤原氏と社家禰宜家の歴史や近代の文化人の高畑サロンの話やポリス設計の栗盛邸等の講義内容。参加者との高畑の景観論議の座談会を開催した。</p> <p>②法隆寺周辺地域の文化的景観の現地講座:参加は24名。法隆寺iセンター～旧北島勇爵邸～法隆寺境内～安田家住宅～辰巳家住宅のルートを1時間かけ清水氏の案内で歩いた。講演会は、文化的景観の定義から法隆寺周辺の構成要素として、西里・東里における中世から近世にかけて法隆寺大工の営みから形成された文化的景観の話。質疑応答による参加者との座談会を開催した。</p>			<p>①高畑地域の文化的景観の現地講座:ウォークは、興福寺境内図と社家地図を現在の道と照合して歩き、変遷が理解できた。細い路地に浜田葆光画伯の旧居や、新薬師寺境内跡等も知ることができた。講演会では、万葉集に謳われた情景から昔の風景を再構築。春日社の成立は古社記を提示。藤原氏の興隆による、南郷高畑の社家町の成立。明治以降の神職定数削減と志賀直哉を中心とする高畑サロン等、長い歴史が重層的に形成された文化的景観の変遷を学ぶことができた。座談会では高畑地域住民の景観に対する意識を高めることができた。</p> <p>②法隆寺周辺地域の文化的景観の現地講座:ウォークは説明により、特別用途地区等の建物への制約・緩和に関する規定を把握した上で歩き、歴史的風致形成建造物3棟も見学できた。講演会では法隆寺と共にあった大工集団と文化的景観の関連性を学ぶことができた。座談会では近世に活躍した法隆寺大工の中井正清の話題を含め話し合うことができた。</p>			
12	いよ本プロジェクト運営委員会	愛媛県伊予市	磯井 純充	一般社団法人まちライブラリー 代表理事	本と人をつなぐ まちライブラリーの魅力	令和7年11月2日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>【講演内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国と県内で行われている事例紹介。 ・普通の生活の延長にある日常性について。 ・「まちライブラリー」は制度や組織に頼らない自由な文化の表現の場である。単なる本を読む場所ではなく、自己実現により人が集まるということ。 ・誰でもできる。一人ひとりが主役になれる。個々の人の自己実現が広がると多様性を生む、「個」の力の重要性。 ・成果や目的意識に縛られず自分が楽しみながら続けると、それが結果として「場」づくりになるということ。 <p>【指導助言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の活動をする時には、読書に興味のない人を想定しているか、活動が狭い視野に陥っていないか指摘を受けた。 ・伊予市ならではの「まちライブラリー」のアイデアの助言をもらった。 			<p>講演後のアンケート結果から以下の点を成果として読み取った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちライブラリー」の理念・内容がよくわかった。公共図書館にはない自由さが「まちライブラリー」にはあり、決して自分の日常とかけ離れたものではなく、むしろ身近なものであると、興味関心が深まった。 ・「場」ではなく「人」が主役であり、個人の自己実現に人が集まる。自分が楽しむことがうまいくコストである、等の説明から、自分の生き方の参考になった。 ・権威にとらわれず顔を見て、互いに名前を言える関係性を大事にすることに気づかされた。 また、紹介された県内の事例(西予市のスーパー内にある「まちライブラリー」)を早速訪ねた人がおり、これから自分もチャレンジしたいという意欲が複数から寄せられた。 			
13	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	アリン 理恵	建築家/獨協大学非常勤講師/一級建築士事務所ara主宰	「後楽園周辺から岡山の新時代を!!」～温故知新:故きを温めて、新たなステージへ～	令和7年11月1日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>岡山建築設計クラブのメインテーマは「まちづくり・人づくり」です。その一つの事業として毎年「ワンデーエクササイズ」を開催しています。県内の大学・専門学校・高等学校で建築を学ぶ学生を対象に課題を設定し、「まちづくり」の提案を行う企画で、今回で32回目となります。全国で著名な建築家であるアリン 理恵氏を講師にお招きし、講演して頂いた後、学生たちの作品について講評して頂きました。</p> <p>学生たちの展示作品、プレゼンに対し決して批判することなく的確に批評していただき、各校にふさわしい賞を与えていただきました。</p>			<p>岡山県内の大学・専門学校・高等学校で建築を学ぶ学生達が、課題を通して「まちづくり」の提案を行い、多くの人の前で自分の考えを発表することで、「チームとして一つの課題に挑戦すること」「多くの人に自分たちの考えを伝えること」等、数々の成果が得られたと思います。</p> <p>また課題地が「後楽園周辺」であったことから、岡山の風土や歴史を勉強することに繋がっており、作品は毎回公表しているので、学生たちの成果だけでなく、まちづくりに関しての一般の人々も関心も深まっていると確信致しております。</p>			
14	Nara Stag Club	奈良県奈良市	①三馬 省二 ②新井 深絵 ③宮川 真由美 ④Steve ETO	①医療法人 江仁会 南和病院 病院長、新井 深絵と仲間たち ②～④新井 深絵と仲間たち	第14回大安寺国際線日「国際線日コンサート」	令和7年11月3日(月)
	講演内容			事業成果		
<p>コンサートホール(獅子吼殿)でのイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療法人江仁会南和病院の病院長 三馬省二氏による「健康について」の講演 ✓総合病院から緩和ケアの病院に移っている想うところがある。 ✓総合病院では病気の治療が一番になっていて、結果として治ってよと思ってたが、緩和ケアに入っている人達は、治療も難しい場合が多いため、日々いかに楽しく過ごすかが大事な事となってくる。 ✓今、皆さんは若干高齢であるとは言え、元気な状態である。 この時におかないといけないことを考えるタイミングになってきた。 例えば、下記の様な事に心掛けることはどうか? ・無理な運動やストレスがかかることを避ける ・良い音楽を聞いてリラックスした、よく笑う <p>○新井 深江と仲間たち(三馬省二氏と3人のプロの音楽アーティストによる「国際線日コンサート」公演)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓下記演目の演奏を行い、参加者に心の癒しを提供できた。 ・imagine, Spain, 雨にも負けず, さくら 			<p>○コンサートホール(獅子吼殿)での、医師による「健康について」の講演、4人のアーティストによる「国際線日コンサート」公演により、参加者83人に「心と体への癒し」を提供できた。</p> <p>○当日同時に、大安寺の歴史を踏まえて、留学生と市民の交流、「市」を現在に再現した国際交流イベントとして、第14回大安寺国際線日を開催し、地域の市民、地域の学校に通う留学生・中学生・高校生・大学生等の合計1400名の参加者に大安寺の名を知らしめることができた。</p> <p>尚、大安寺境内での具体的なイベント内容は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓舞台パフォーマンス(10組公演) 和太鼓、民族舞踊、英語クイズ、雅楽等 ✓留学生屋台(6店舗) ベトナム、ミャンマー、スリランカ、バングラデシュ、ネパール、中国 ✓民間店、キッチンカー、文化ゾーン(23店舗+6ブース) インド料理、ベトナム料理、奈良土産物品、囲碁・将棋体験、パネル・絵画展示等 			
15	特定非営利活動法人あしやNPOセンター	兵庫県芦屋市	①長谷部 治 ②津久 井進	①神戸市兵庫区社会福祉協議会 地域支援課長 ②兵庫県弁護士会 芦屋西宮弁護士事務所	災害時対応セミナー	令和7年11月1日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>テーマ:能登半島地震から見る「ボランティア」のこれからと題し、被災地の今を知り、災害ボランティアとしての心構えや取組みについて長谷部氏から学んだ。長谷部氏の資料「僕が大切だと思っていて皆様にお話ししたいこと10」では、ボランティアには多様な役割があり、災害対応には、その役割に応じた仕組みづくりが重要だと事例を交えながらの内容だった。第二部の、長谷部氏と津久井氏のトークセッションでは、能登半島地震の現状や現場での支援、ボランティア活動のこれからについての災害ケースマネジメントを踏まえてのボランティアのあり方を考える時間となった。交流会では、講師への質問や参加者同士の交流の場とした。</p>			<p>災害対応には、「多くの人を救うことのできる仕組み」と「個別の事情に対応できる仕組み」の両立が大切であり、その中心が災害ケースマネジメントだと学んだ。被災地は時間とともに必要となる支援も変化していきため、ボランティアだけでなく、行政や社協、中間支援団体が支援の方法を連携し考える場が必要と感じた。</p> <p>参加者からは、「大切な視点をたくさん得ることができた」「相手に寄り添うことベースであり重要だと再確認。生きていくモチベーションを個人個人で持たせることに共感」など感想をいただいた。交流会では、多様な立場の方との意見交換ができ、災害時に大切である「人との繋がり」を広げる機会となった。今回のセミナーを通して、災害支援に向けたボランティアの視点や在り方を参加者全員で共感し改めて学ぶ場を提供できた。</p>			

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
16	ママボラむなかた	福岡県宗像市	松田 妙子	一般社団法人ジェイス 理事 特定非営利活動法人せたがや 子育てネット 代表理事	コミュニティワーク研修	令和7年11月16日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>「自分を形づくるもの」をリストアップして小グループで自己紹介を行い、5分間相手の話をじっくり聞くワークを行った。講演では、困ってからの救命浮き輪を投げる形の行政の子育て支援だけでなく、困る前に頼れる場所・頼れる人から救命浮き輪を受け取ることも必要で、そういった「頼れる場所・頼れる人」を地域に小さくたくさん用意しておくことが必要だ、という話を中心に、実際に東京都世田谷区で行われている取組を紹介。ワークショップでは「自分が感じている課題」と「地域のもつ資源(人・制度など)を生かしてやりたいこと・できること」を書き出し、小グループごとにまとめて発表し合った。</p>				<p>地域に小さくたくさん頼れる場所・頼れる人を増やすことが、コミュニティワークとして重要だという認識が参加者に広まったことが大きな成果と言える。「個と地域の一体的支援」という概念の中で「個を地域で支援する」ことはすでにやっている地域も多いが、「個を支援する地域をつくる」という発想は新しくなった。結果としてワークショップの中で「住宅街の中で自宅の庭に七輪を置いて集う場所を意図的に作る」「乳幼児親子が集える場所を徒歩圏に小さくたくさん作る」「空き家を駄菓子屋にして誰でも座れるベンチを置く」などのアイデアが出たことから、小さくても人と人が交差する場所を作ることの重要性が参加者に伝わったことが分かる。</p>		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
17	一般社団法人 洗楓座	東京都品川区	①鶴飼 隆 ②寺川 昭広 ③池口 直子 ④柳生 好彦 ⑤鈴木 清左衛門 ⑥山川 建夫 ⑦伊藤 邦明 ⑧白瀬 一郎	①自営 ②自営 ③株式会社地球王国 代表取締役 ④小豆島ヘルシーランド株式会社・相談役 ⑤自営(元川西町区議員) ⑥自営(元フジテレビアナウンサー) ⑦(株)伊藤邦明都市建築設計研究所 代表取締役、東北大学名誉教授 ⑧自営(石田テラー店主) 小山三丁目第1地区市街地再開発準備組合 副理事長	洗楓座出版事業キックオフの会	令和7年10月1日(水)
	講演内容			事業成果		
<p>鶴飼隆氏・「洗楓座から本を出すこと」を本づくり(編集、印刷、製本)から、取次流通など出版業務の実際について解説された。洗楓座で出版事業を行うには、小部数で製作することを旨とするこのメリットとその妥当性について、事例を紹介し説かれた。 テラカワ氏・これまで手掛けた展覧会や催事のポスター、ビール等の商品ロゴデザイン、カタログ等のPR誌デザイン、一般書籍や雑誌の表紙やコンテンツのデザイン、TVや映画、俳優のプロモーション等のメディアデザインの要点などについて解説された。 池口直子氏・企画本としてのテーマ設定からコンテンツの取り上げ方について、葉書茶による特集本の出版企画を例として解説された。参加者には接客サービスを入れて、会場で試飲の機会をつくって和ませてくれた。 鈴木清左衛門・同氏は、世界を飛び回った農協観光の添乗員でもあった。いまはインバウンドの観光客を迎えるため、アグリビジネス関連では、グリーンテクニカルビジネスを2例、花き農家としての受け入れ、前職の職員としてのツーリズム活動について紹介された。 柳生好彦氏・小豆島で、「オリーブと共に生きる」ライフスタイルをつくる提案ビジネスを行ってきた。そのきっかけは、ゆかりの著名な人物(小豆島出身の高橋荒太郎さんと小説家&着物デザイナーの宇野千代さん)との出会いが、創業や新規事業着手につながり、そして自身や家族やスタッフの愛情こめた努力が今日をつくったと元気の話をしてくださった。 山川建夫氏・茨木の子の詩を2編朗読した。元TVアナウンサーでもあり、朗読教室の先生でもある同氏の表現力に参加者に感銘を与えた。TV局を退職後、とりわけ千葉県での自然環境の中で、地域と日本に影響を与える生き方。きっと、出版の動機づけになる経験豊かな暮らしと考えるについて講話された。 伊藤邦明氏・大学生のときからの主題としていた独自の幾何学的骨組み建築構造について解説され、そして60年後の現代のDXを組み合わせた、4次元(空間と時間)、さらに色次元を加えた建築設計について紹介、この概念を自邸に、超4Dミュージアム構想として適用している。次世紀を志向したブルネルの革新性が伊藤氏にはある。 白瀬一郎氏・一級洋装技術士の同氏にお願いした時代考証に基づいたブルネルの蠟人形の衣装製作における要点を、詳しく楽しく解説された。その論考は、出版物としての価値が感じられた。</p>				<p>洗楓座の定款には、出版や編集等を事業活動として掲げており、そのために既にISBNを取得し、本格的な出版事業の準備を始めている。そのキックオフを、その関連として開催することができた。デジタル時代に紙媒体の出版を行うことについては、戦略をもって行わなければならない。それには、その業界における基本と常識を知り、かつ、それに新たな革新を加えなければならない。関連分野で活躍している(活動していた)方々を講師として迎え、また洗楓座の得意分野において出版の可能性の参加者を迎え、その意義を周知&関心をもって頂いた。お蔭様で大きな成果を得ることができたといえる。</p>		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	えひめ地域づくり研究会 議	愛媛県松山市	①笠松 浩樹 ②田窪 良子 ③シーバース 玲 名 ④大家 帆香 ⑤小松 葵 他2名	①愛媛大学社会学部准教授 ②NPO法人創作クラブ「Grian」代表理事 ③ゲストハウス「ento house」オーナー ④多文化共生ハウスUMI 管理人 ⑤伊予農業高校国際教育部	人口減少社会を生きる！フォーラム2025「多文化共生社会を考える！」	令和7年12月13日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>「インクルーシブの扉を開けよう！共生社会を考える！」をテーマに、招聘した講師から問題提起、特別講演、活動報告をしてもらい、地域において外国人や高齢者、障がい者など多様な人を認め、受け入れる寛容性をはじめ、多様な文化が共生する社会や多様性を活かす地域づくりのあり方等について、様々な視点から対話を話し合った。</p>				<p>ディスカッションでは、それぞれの発表に対し、参加者から質問や意見を出してもらい意見交換を行った。 最後のとりまとめでは、「インクルーシブの扉をどうやって開くのか」との問いに、①自分から動いてみる、②つながる、③地元の人ともにつくることの3つの視点が重要ではないかと語られた。そうやっていくと、そのうち扉はなくなるのではないかと、扉や壁を意識しない社会を目指していこうと決意を新たに会を閉じた。</p>		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
19	宮ノ前地区愛護隊	岡山県浅口市	①内藤英博 ②田熊久美子 ③河内千鶴子	①(公社)柳井広域シルバー人材センター ②(公社)柳井広域シルバー人材センター ③(公社)柳井広域シルバー人材センター	金魚ちようちんづくりで 笑顔づくり 地域づくり	令和7年11月29日(土)～30日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>柳井市の民芸品「金魚ちようちん」の作成指導をして頂きました。曲げ加工された竹の骨組みにしっかりと和紙を貼り付け、糊が乾いたら和紙に溶かした蠟を提灯と尾びれの赤と白の色の境目に筆で線を引きます。乾いたら赤色をしっかりと塗り乾いてから、目を取り付けて完成します。</p>				<p>出来上がった「金魚ちようちん」を自宅や職場に持ち帰りました。「わぁ～！！可愛いー！！」「作るのが難しそう」と言う感想の中、「今度柳井の街を訪れてみたい」「金魚ちようちん祭りに行きたい」との声が上がりました。事業を通じて参加者の絆がより深まったと思われまます。</p>		

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
20	芦屋Tioクラブ	兵庫県芦屋市	①李 亜輝 ②富岡 潤子 ③中河 友紀	①日本二胡学会理事 ②関西二期会、関西歌劇団ピアニスト、茨木市公民館講座講師 ③頌栄短期大学講師、日本演奏連盟、宝塚演奏家連盟各会員	音楽ボランティア養成講座・実践編	令和7年8月28日(木)～令和7年12月11日(木)
	講演内容			事業成果		
1. 音楽ボランティア養成講座は得意技能のブラッシュアップを行い、人材の育成を図る。音楽イベントの活動を活性化させ、地域密着型の地域貢献活動の継続・定着を図る。 2. 地域交流を創出する場として、世代間の交流を図る音楽イベントの企画・運営・実施で経験値をあげる。音楽ボランティアとして、継続的に地域交流の場作りを促進する。 3. 老人福祉施設や高齢者のつどいの場、演芸フェスティバル、地域の集会所などへの地域の輪づくり出前コンサートでコミュニティーの構築に寄与する。 4. ふるさとの魅力を再発見するツール「ふるさと紀行」の制作、撮影から映像編集を行う。映像は長年余り撮り続けている地域の自然や景観から「芦屋川かがるがもの子育て観察日記」を制作。音楽と映像のコラボコンサートで、ふるさとの川に生きたるカルガモ達が成長する記録映像を見ながら、地域や自然環境を考えるきっかけとして郷土愛を育む。				1. 音楽ボランティア養成のワークショップで器楽演奏のスキルを上げた。音楽交流イベントの企画・構成・実践で経験を積み、音楽ボランティアとしての意識向上につながった。 2. 地域で活動を継続する担い手の育成、地域に住む誰もが参加できるイベントでは人の繋がり、高齢者とのふれあひ支え合いの場として意義ある事業展開となった。 3. 地域のアーカイブ記録「ふるさと紀行」上映は、住んでいる町の景観や厳しい自然の中で一生懸命生きるカルガモ親子の姿に力を貰い、親子や地域の人のつながりや自然や環境、気候変動などを見て自分の住む町を考える意識醸成の一助となった。		
21	NPO法人 棚田LOVERS	兵庫県市川町	①片山邦夫 ②内山昭一 ③佐藤裕一	①片山地域応援事務所 代表 ②NPO法人昆虫食普及ネットワーク 理事長 ③昆虫エネルギー研究所 代表	稲刈り、生き物を地域づくりで活用する事例を通じて学び、実践する研修会事業	令和7年11月9日(日)
	講演内容			事業成果		
片山邦夫氏からは2013年より10年以上稲刈り、野外活動などを通じて地域を活性化することを指導されている経験、自然体験や地域づくりに詳しいことを活かして、いかに稲刈りで楽しむか、具体的な稲刈りの仕方(手がケガしないように刈らない方の手は逆手で稲を持つなど)など、さらに地域づくりの立案などの話を伺った。 佐藤 裕一氏からは1996年から地域活性化の活動を行われており、映画でも信州昆虫食アンバサダーで役者として出演され、その映画が優秀芸術賞を取られていることから、いかに、生き物を地域づくりで活用するかを伺った。また、生き物の分類などについても詳しく説明いただいた。また、バッタのクイズで多様なバッタの呼び方があることを学んだ。 内山昭一氏からは日本各地での講演実績や著書も多数出版されている経験を活かし、生き物を活用した地域おこしの先進事例の話を伺った。具体的な生き物の事例やクイズも出して、わかりやすくいただき、より参加者の満足度の向上につながった。そして、実際に蜂の巣も持参いただき、蜂を活かした地域づくりについて学ぶことができた。				片山氏の地域を活性化することを指導されている経験、自然体験や地域づくりに詳しいことを学び、参加者の知識、実践力向上につながった。そして、稲刈りの方法も丁寧に教えていただくことで、参加者の満足度向上につながる成果が得られた。佐藤氏と内山氏からはクイズも交えて、参加者同士で情報交換会・交流も行い、ネットワークづくりができることにより、地域活性化の成果につながり、地域作りの人材の育成する成果も得られた。		
22	徳島県果樹研究連合会	徳島県石井町	青木 保	長野市農業委員会 会長	次世代の農業人材活躍推進事業	令和8年1月16日(金)
	講演内容			事業成果		
本県の果樹産業は、中山間部を中心に果樹生産者の減少が深刻化しており、担い手の育成が急務となっている。そのため、果樹生産に新たな人材を呼び込み、新規就農者にとって魅力のある産地の形成を行うため本事業を開催し、農地集積による果樹団地の設置の流れについて学ぶとともに、意見交換を行うことにより、就業しやすい環境の整備を推進することとした。 研修会では、長野市農業委員会会長青木氏から、長野市若穂織内地区における農地集積事例について御講演いただいた。農地集積のメリット、国事業活用による費用軽減、地域の合意形成の方法(農業委員による個別訪問等)等を学ぶとともに、長野市の新たな取組を紹介していただいた。また、農地集積時の土地の権利や生活の保障など、農業者等からの疑問点について御回答いただいた。				農地集積は単なる土木工事にとどまらず、「地域コミュニティを守るための投資」であると認識を新たにするとともに、強い決意をもって地域の合意形成と環境整備を進めていくことが、次世代へと果樹産地、中山間地域を継承する鍵であることを学んだ。 意見交換の場では、権利関係の整理(換地や売買)や工事中の所得補償(代替農地の借受)、さらには事業要件達成のための密植栽培による収益性向上(収量1.5倍～2倍、品質向上)など、具体的な課題や解決策について活発な議論が交わされた。 研修会終了後には、徳島県農地中間管理機構や市の担当職員へ具体的に相談を持ちかけた参加者も複数見られた。このことから、本事業が産地のリーダーや行政関係者の意識改革を促す重要な契機となったといえる。今後も継続的に研修会を開催することにより、中山間地域の活性化を力強く推進していく。		
23	特定非営利活動法人バーコーディネーター創生	兵庫県淡路市	石田均	淡路グリーン館・ディレクター	地域市民のための研修会 枯れにくい花づくり	令和7年8月27日(水) 令和7年12月6日(土) 令和8年1月10日(土)
	講演内容			事業成果		
8月27日:ばらの育て方(講習・実習) 12月6日:つるバラの剪定と誘引(座学、実習) 1月10日:①花木の剪定と育て方、宿根草の育て方(座学) ②サルビアレクカンサ、インゴク、ランタナ、などの宿根草の切込(実習) 実習では講師から丁寧な説明があり、受講の効果大と見受けられた。				多くの家庭ではバラを栽培しているが、日ごろの管理方法が判らず、今回の研修で育て方が判ったとコメントをいただいた。また、花木の剪定も普段はやっておらず、実習を通じて会得されたようだった。植物管理は四季により変わるので、引き続きスキルアップのための研修は必要と思う。		
24	高安能未来継承事業推進協議会	大阪府八尾市	①西野 春雄 ②今泉 隆裕 ③松曳 将仁	①法政大学 文学部名誉教授 ②桐蔭横浜大学 スポーツ科学部教授 ③八尾市立歴史民俗資料館館長	八尾の魅力を取り起こそう！八尾ゆかりの能(守屋)を探る	令和8年2月23日(月)
	講演内容			事業成果		
八尾の魅力を取り起こそう！という趣旨で、八尾の地域にゆかりがあり、現在は廃曲となっている物部守屋と聖徳太子の戦いを描いた能作品(守屋)を、「八尾の魅力」として蘇らせることを目指し、復元創作の過程を公開しながら、有識者の意見交換により市民とともに地域活性化のソースづくりを進める講座とパネルディスカッションを行った。 西野氏:能の復曲による地域活性化の意義 松曳氏:物部守屋と八尾の歴史的つながりについて 今泉氏:能「守屋」復元における研究内容 山中氏:八尾での能を使った地域おこし活動について 現時点までの復曲成果(実演)				この講座を通じて①ユネスコ世界文化遺産である能とわが町につながりがあること ②復曲は法政大学ほか能楽研究では第一人者の研究者によるもので、全国レベルの文化価値があること ③重要無形文化財指定保持者の能楽師が計画段階から参加していること。など地域の魅力を作り上げていくための狙いを持って企画を進めて行こうとしていることをアピールし、受講者に担い手として活動への参加を呼び掛けることができた。		

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
25	わたぼうしくらぶ	和歌山県和歌山市	阿比留久美	早稲田大学 教授	現代社会が抱える孤独・孤立とその支援の居場所を再考する	令和8年2月8日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>基調講演は、阿比留久美早稲田大学教授が担当。テーマは「地域社会で若者が生きられる場を、共につくる」でした。子ども・若者が声を発することが場づくりをしていくことが今後とも重要であり、「場の力」の持つ影響力は大きく、そこで子どもと子どもの相互作用だけでなく、子どもの同士の関係性も展開していくことが重要と訴えました。基調講演後、阿比留先生をコーディネーターとして、孤立・孤独、引きこもりを支援している団体の代表者4人のパネラーも登壇し、各団体の紹介後、トークセッションをおこなった。各団体の活動の共通点は青年期を迎えた若者が引きこもってしまうことを防ぐための地域で包括的に支えることが重要ということであった。</p>					<p>今回のシンポジウムでは、「経済的な支援」だけでなく、「心の居場所」をどう両立させていけるか課題と感ずる参加者が多かった。登壇した各支援団体は、ひきこもりの問題に関する情報を提供しながら、自分の感情を整理し受け止めるだけでなく、コミュニケーションスキルを獲得してもらう場にしていたり、「働く」ための準備の場を提供している団体もある。働くために必要な基本的な対人スキルやマナーを身に付けることなどを目標にしている。各団体ごと工夫しながら活動しているが、今回のシンポジウムを契機に地域住民を包括的に巻き込みながら連携していくことも肝要だと認識し、孤立・孤独防止ネットワークの構築が必要と参加者全員で認識できた。</p>	
26	認知症の人と家族の会 いいつか	福岡県飯塚市	大谷 るみ子	NPO法人福岡県高齢者グループホーム協議会理事長	令和7年度認知症の人と家族の会 いいつか研修会	令和8年2月21日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>本事業では、認知症の人と家族を支える地域づくりを目的として研修会を開催した。講師に大谷るみ子氏を招き、パーソンセンタード・ケアの理念を基盤とした「本人中心の支援」の考え方について講演を行った。講演では、認知症の人の尊厳を大切にしたい関わり方や、家庭・施設それぞれの場面における具体的な支援方法について、事例を交えながらわかりやすく解説いただいた。認知症の人や家族、介護職、医療福祉関係者、地域住民など幅広い参加者が集まり、認知症の理解を深めるとともに、地域全体で支える視点について学ぶ機会となった。</p>					<p>本研修会を通して、パーソンセンタード・ケアの視点に基づく支援の重要性について理解が深まり、認知症の人や家族、支援者が抱える悩みや不安の軽減につながる学びの機会となった。認知症の症状や行動を単なる問題行動として捉えるのではなく、その人の思いや生活背景を理解することの大切さを学ぶことで、適切な関わり方や支援の工夫について具体的に考えることができた。また、一般市民の参加もあり、認知症に対する理解や支援の方法について地域への普及啓発にもつながった。認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくりの一助となった。</p>	
27	下野市自然に親しむ会	栃木県下野市	鈴木 純	植物観察家	半径100mで楽しむ身近な植物観察のススメ	45,767
	講演内容			事業成果		
<p>谷本丈夫宇都宮大学名誉教授から「造林・森づくりの歴史に学ぶ～何のための森づくりか～地球環境に及ぼす森林・林業の役割と展望」というテーマでフィールドワーク・講演いただきました。「造林は実学であって、自然を観察することが重要で、継続性が求められています。地域オリジナルで活動していく必要があります。例えば敷かれている山は次の世代のためにならないので、くまの木山山応援団の活動を続け、地域で森を育てることが大切です。」と述べられました。フィールドワークでははじめて仲山共有林内を散策し、「ここの人工林は管理不足でもやし状態。例えば通常の間伐をしたら、強風で残した木が折れてしまうだろう。地形により人工林の生育具合が違うことがわかります。」と木々の見方を伝授いただきました。</p>					<p>・谷本先生から、仲山共有林内の人工林が手入れ不足で、葉が少なく徒長成長しており、丁寧な施業をするようアドバイスがありました。 ・広葉樹についても、境界あたりに花のきれいなコブシを植え、薪などに活用した歴史を解説いただきました。 ・講義では、団員から活発に質問があり、保育といった手入れ作業の重要性を再認識しました。 ・谷本先生から、来年度は地形の違うところで、土壌断面と植生を比較してみようというご提案をいただきましたので、来年度実施したいと思います。</p>	
28	総合型広域スポーツクラブ クロス実行委員会	北海道苫小牧市	富川 蒼太	一般社団法人日本スケートボード協会AJSA公認プロスケートボーダー	苫小牧ストリートスポーツフェスティバル実施に関する専門家招聘	45,949
	講演内容			事業成果		
<p>令和7年10月19日、苫小牧市緑ヶ丘公園のスポーツ施設を活用し、複数の地域団体が協働でスポーツイベント「苫小牧ストリートフェスティバル」第6回目を開催しました。本助成事業では、AJSA公認プロスケートボーダー富川蒼太選手を迎えて、充実したスケートボード教室と大会を行うことで、北海道全域からスケーター参加者を募り、スポーツの普及促進を図りました。</p> <p>【富川蒼太選手】 テーマ:楽しむスケートボード 内容:単独スケートボードデモンストレーション 合同スケートボードセッション スケートボードミーティング スケートボード大会審判員</p>					<p><次世代教育> スポーツの普及促進と青少年の健全育成を目的に、スケートボード教室および大会を開催した。</p> <p><コミュニティの活性化> 地域住民や関係者間の交流と協働を促進し、地域コミュニティの結束力の向上に寄与した。</p> <p><観光振興への貢献> 苫小牧市緑ヶ丘公園のスポーツ施設を活用したイベントを実施することで、市外・遠方からの来訪者を誘致し、スポーツツーリズムの推進に貢献した。</p>	
29	鳴子ツーリズム研究会	宮城県大崎市	稲葉 俊郎	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 (SDM) 特任教授	稲葉俊郎氏講演会「未来の医療 芸術と湯治とマインド風呂ネス」	45,795
	講演内容			事業成果		
<p>稲葉俊郎氏は、熊本県出身で東京大学医学部を卒業し、東大病院循環器内科助教を経て、2020年軽井沢へ移住。その後軽井沢病院の院長を務めた。医療の最前線を行ってきた稲葉氏は、これからの医療は「治す場」だけでなく「治る場」を探求する段階に入っているという。湯治は医療の原点であり、神道(禊)など日本文化とも深い関わりがあり、心身・魂の治癒を起こす場という。まさに「湯治場」は他力ではなく「治す場」、自力で治癒する「治る場」として古来から日本人が利用してきたところだ。</p> <p>古代ギリシア時代、アスクレピオス信仰によるエビダウロス巡礼では、夢見に基づく治療を受けながら入浴やスポーツ、野外劇場での演劇などを楽しんだ。これからの湯治場は健康+医学に加え、芸術、音楽、詩(こぼ)などが交わり、新しい文化を創造する場となる。石油をはじめとする天然資源はこれまで戦争や領土争いを生んできたが、温泉は人々を健康にする天然資源だ。戦争ではなく、平和や幸福を生み出す天然資源としての温泉で日本は世界をリードできるし、貢献してゆくべきと語った。</p>					<p>今回、稲葉俊郎氏の講演会企画により主に以下のような成果を期待していた。</p> <p>①温泉の新たな活用法に関するアイデア創出:講演会に参加者から温泉の医療・健康分野への活用や、温泉と芸術の融合に関する具体的なアイデアが創出されること。</p> <p>②参加者や地域住民が主体的に温泉活性化プロジェクトを立ち上げ実行に移す機運の醸成が起きたり、温泉と芸術の融合による新たな文化創造などにより新たな鳴子温泉郷のブランド力の向上のヒントを得ること。</p> <p>結果として、温泉とは何か?健康とは何か?芸術の効用とは?といったような本質的な問いに対して、事業者や地域住民がどのようにとらえているかという前提から始まらないと、稲葉先生が述べた、well-beingや「温泉地は地球が作った病院」といった概念は伝わらないと感じた。現代医学の最前線で行ってきた稲葉先生が「温泉地は未来の医療の場」となるという言葉には重みがある。表層的なアイデア出しやブランディングにとらわれず、今この地球において、すでに鳴子温泉郷に備わっている、自然環境や温泉、気候風土などを有効に活用し、未来の医療の場として何に取り組んでゆくべきか改めて地域で考えてゆく必要があると感じた。今回の講演会には鳥取、京都、山梨、東京など遠方からの参加者もあり、稲葉先生の話に多くのインスピレーションをもらったようだった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
30	子どもと風と結の会	長野県飯山市	①那須 ジュリアン ②小山 歌奈 ③高橋 可桜吏	①元接骨院院長、親子のメンタルコーチ、「愛幸」代表 ②保育士、ナチュラルフードコーディネーター ③(株)AUMA代表、サロン 詩おり代表	北信州心身の健康セミナー	①令和7年5月10日 ②令和7年6月6日 ③令和7年9月13日
	講演内容			事業成果		
<p>楽しく、元気に生活できるための心身の健康づくりを学ぶため、セミナーを開催しました。3回シリーズとします。第1回目は、子どもの不調や発達障害を克服するための講演会を、第2回目は、食品安全性と選び方を学ぶワークショップを、第3回目は、電磁波から身体を守る麻炭のワークショップを開催しました。</p> <p>①1回目 5月10日(土) 子どもの不調や発達障害を克服するための講演会 講師 那須 ジュリアン 長時間にわたるお話し会でしたが、母親と一緒に参加した子どもたちも真剣に耳を傾け、「お母さんの元気が一番大事」という学びを共有することができました。この気づきが、将来自分が親になったときに思い出され、家庭の健康づくりに役立つことが期待されます。また、食品添加物や生活環境など食事の改善の重要性を再認識するとともに、それ以上にどんな状況にも負けないメンタルの大切さを考えるきっかけとなりました。参加者からは「日々の食生活を見直したい」「母親として心身を整えることが家族の幸せにつながるかと実感した」などの感想が寄せられました。</p> <p>②第2回目 6月6日(金) 食品安全性と選び方を学ぶワークショップ 講師 小山 歌奈 食品安全性をテーマに、食養生やナチュラルフードの視点から「食べたもので体はつくられる」ことを学ぶワークショップを開催しました。薬に頼る前に自分の力で治すつくりをめざし、昔ながらのおばあちゃんの知恵や食の工夫を学び、日々の食生活を見直すきっかけとなりました。当日は参加者に砂糖・塩・醤油の3種類を持参していただき、実際に味見しながら裏ラベルの見方や原材料の選び方を学習。日常的に使う調味料から、体を守るための食品選びのポイントを実践的に理解する機会となりました。</p> <p>③第3回目 9月20日(土) 電磁波から身体を守る麻炭のワークショップ 講師 高橋 可桜吏 天然素材の布を麻炭藍染で染め、電磁波から身体を守り、体の不調を整えることを目的としたワークショップを開催しました。参加者は、先人の知恵や手仕事の技術に触れ、失われつつある伝統的な染めの魅力を感じながら、「身につけるものも薬になる」という新たな視点を得ました。麻炭藍染は、体へのやさしさだけでなく環境負荷が少ないことも特徴で、自然との循環や調和を大切にする暮らしへつながる実践として、多くの気づきが生みられました。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
31	(特非)いちほら市民会議協議会	千葉県市原市	ライオン・マカヴォイ	映画監督	市民(私たち)の力で子どもたちの命を守るシンポジウム	45,956
	講演内容			事業成果		
<p>ライオン・マカヴォイ監督作品の「取り残された人々：日本におけるシングルマザーの苦境」を上映し、日本における様々な理由でシングルマザーとなってしまう、生活の為に仕事をしながら子育ての大変さや、親族や隣近所、行政の支援の状況など、日本の現状を他の先進諸国と比較して低い支援状況を講演頂き、今後の関係者及び団体として改善していく必要を感じて頂く。</p> <p>当日は、市原市民や議会議員や職員をはじめ桃子市や松戸市、千葉市、木更津市などの市議会議員、千葉県議会議員などの出席を頂き、上映された映画を鑑賞し、その後制作監督のトークを含んだ講演や参加者からの質問や、撮影時の苦労や現実のむなしさを感じると共に、行政や近隣の方々のもと積極的な援助や理解の必要性を感じた。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
32	長野市大岡地区住民自治協議会	長野県長野市	及川卓也	元マガジンハウス広告局長・クロスメディア事業局長、東京都観光まちづくりアドバイザー	地域を伝える-地域でできる発信力の磨き方	令和7年6月14日 令和7年6月15日
	講演内容			事業成果		
<p>「地域をシェアする発信力の磨き方」と題し、地域や集落の発信力を高める講座を実施した。講師に、元マガジンハウス社で編集長などを経験された及川卓也氏をお招きし、「発信する」とはそもそもどういうことか、人に何かを伝えるために何をすべきか、というような発信者としての心得を学んだ。発信力という、インスタ、Facebookなど手段の話になりがちだが、そもそも発信したい内容が乏しければ、人は見てくれない。大事なのはストーリー性のあるコンテンツであり、それをどう見つけ出し、どう立上げて上げるか、そのことを各々の組織や立場、フィールドで少しずつでも実践すべし。一気に発信力が向上することはない。地域を見る目を鍛えつつ、日々の活動を通じて地道に発信力を磨いていくことが大事である。</p> <p>発信力とは、発信者が「何をみているか」が問われていることでもある。地域を見る目、人を見る目をもっと磨いていくことが発信という行為のベースだ。その上で、誰に、何を伝えたいのか(発信)、そしてどのように伝えたいのか、が定まってくる。さらに、どう伝えるかについては、ストーリー性が非常に大事だ。単なるコンテンツの羅列ではなく、人の心を動かせるような発信を心がけたい。今回の講座では、地域をもっと広めたいと思っている地元の小中学生も参加してくれ、発信をテーマに大人たちと意見を交わし、地域の人や生徒たちの熱意に刺激を受けた。地区外からの参加者や市内の大学生たちからの意見も大いに参考になった。その意味でも良い学びの場がたつことができた。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
33	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	①河合拓始 ②根城秀峰 ③柴垣博孝 ④熊谷拓治	①音楽家・作曲家・即興演奏家 ②安藤昌益資料館を育てる会会長(謝金なし) ③元八戸学院大学教授 ④八戸漁業指導協会会長	安藤昌益資料館開館16周年記念シンポジウム 「自然真営道を自然真音楽という音楽で表現すると」	45,955
	講演内容			事業成果		
<p>毎年、天聖寺シンポジウムでは、昌益と思想に関する研究や書籍発刊した方々を講師として招いており、哲学者、歴史学者、医学者、作家などさまざまなアプローチで、実践してきた。今回のシンポジウム基調講演は、音楽家の河合拓始氏が「音楽で昌益を語る」と題して安藤昌益の思想を音楽で表現するという手法だ。安藤昌益を知ったきっかけや、なぜ「自然真音楽」を開催したいと思ったか、コンサート「自然真音楽」の公開動画を視聴しながら、昌益からどのように触発されて表現を組み立てていったのかを講演した。柴垣博孝氏は、安藤昌益の交遊録「詩文聞書記」とい、難解な漢文を解き明かした「安藤昌益の謎」の書籍を発刊したいきさつや苦労などを話した。熊谷拓治氏は、青年会議所「LOVE八戸運動」で、安藤昌益のスタンプを持ち全国各地をまわった時のエピソードを披露した。</p> <p>基調講演者の河合拓始氏のピアノと歌で、安藤昌益の言葉や思想を表現するという、新しい手法は、来場者にはかなりの新鮮さと、リラックスをもたらした。河合氏のアコースティックフルート演奏の講演動画は、さまざまな楽器演奏と歌と踊りで、斬新なものだった。最後に、天聖寺の来場者を巻き込んでの声を発しての参加型の演出は、聞いていたばかりの講演とは違って楽しいものだった。安藤昌益は、「米」をすくぐく大切に取上げている。熊谷氏は、今年米考だそうだが、米寿と言えども、そこで、自分は古米か、古古米か？いや備蓄米になりたいと、会場を笑いに誘った。「世界の思想家 安藤昌益」といって、難しげでとっつきにくいイメージだが、自由な発想で昌益を表現したことは八戸市民に、親と親近感を与えたとはいえない。</p>						

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
34	ウミガメネットワーク三重	三重県津市	田中 宇輝	美波町公民館 学芸員	地球温暖化による孵化率悪化を防ごう	45,795
	講演内容			事業成果		
講演 ・産卵場所に遮光ネットを被せるように設置したら、砂の温度の上昇を抑制することができ孵化率が上がった。 ・設置については、地形・砂の粒形・砂の質や色・汀線からの距離等様々な要因により砂中温度が変わるため十分考慮が必要である。 ・昨年は暑すぎたせいか効果がなかったため、やり方については試行錯誤が必要である。 現地視察 ・実験であるので、隣の実験と適度な間隔を取ることが必要だ。 ・大浜海岸では、風で地表の砂が飛ばされることがなかった。こちらの方が砂が細かいので風の影響を受けやすい。 ・遮光ネット設置パターンを変えて実験したらどうかという助言をいただいた。			講演でお話を伺った上、現地視察をしていただいたので更に理解が深まった。具体的な設置方法も伺えたので、準備を進めている。当会の調査範囲で協働で調査している三重大学ウミガメ・スナメリ調査・保全サークル「かめっぷり」も一緒に現地視察をしたので、産卵を前提に遮光ネット設置の計画を進めていくことを確認した。			
35	NPO法人原始感覚舎	長野県大町市	①山下彩香 ②多田正美 ③香川大介	①EDAYA(共同代表) ②サウンドアーティスト ③画家	原始感覚における即興音楽と先住民文化と絵画	45,899
	講演内容			事業成果		
「信濃の国 原始感覚美術祭2025一水のやまづと」において、フィリピンの先住民カリンガ族のアーティストと共同のプロジェクト EDAYAを行う山下彩香が、カリンガ族の竹の楽器がすべて儀式と関連するものであり、竹楽器でヒーリングを行った際に、それを燃やすか、軒下に吊って放棄するなど、一度きりの儀式のための楽器である先住民のモノの価値を語り、その感覚を原始感覚美術祭に参加の経験から、未来の原始感覚というキーワードをもとに活動していくというアドバイスを頂いた。画家の香川大介は、インドのラダックで行われたフォレストアートフェスティバル in ラダック2024に参加した際に、チベット寺院の僧侶と暮らしながら描いた巻き絵について語り、原始感覚美術祭の初期から参加し、現在までの展開を俯瞰し、絵画の即興性を生かした展開についてアドバイスを頂いた。			山下彩香の語ったカリンガ族の竹楽器の感覚は、都市中心の物欲に支配された感覚とは真逆の、儀式や癒しのために捨てることの大切さを語ることで、忘れられている物を捧げるという感覚を呼び覚ました。 即興音楽家の多田正美は、国指定重要無形民俗文化財の西浦の田楽と出会った体験などを語り、未来の原始感覚というキーワードから伝統芸能の名人の感覚と現代音楽の接近という観点から語り、後継者の減少に直面する伝統芸能の継承についての可能性を示唆した。 香川大介が語ったチベット仏教の僧侶とともに暮らしながらも、寺や仏教などの具体的なモチーフを描くのではなく、そこから自由に生まれるイメージを描くという経験から、アートにおけるイメージの自由な飛翔についての感覚を訪れたひとたちと共有した。			
36	特定非営利活動法人楽遊ネットワーク宮城	宮城県登米市	①伊達宗弘	①歴史作家・仙台大学客員教授、元宮城県図書館館長・仙台藩士会会長	特定非営利活動法人楽遊ネットワーク宮城	45,823
	講演内容			事業成果		
伊達宗弘氏の自宅を開放して頂き歴史講話を行いました。歴史を通し地域づくりの重要性、伝統文化の次世代継承の必要性等をパワーポイントでわかりやすくお話して頂きました。講和後は、質疑応答の時間を設け参加の皆さんと率直で有意義な意見交換を行うことができました。重要文化財にも指定されている敷地内にある1672年に建立された登米伊達家4代宗倫(仙台2代藩主忠宗の子)の桃山式廟所・天山公廟(覚乗寺高台院霊屋)を案内して頂きました。その後場所を変え、日本伝統家屋・蔵(角田屋)では、土蔵建築の欄干・格子建具の説明を受け、二階に移動、床の間付の書院一室にて茶席ワークショップを行いました。			伊達宗弘氏による講話は、伊達氏自身の身の歴史でもあり、生まれてから現在も居住しているご自宅で開催させて頂いたこともあり、歴史の重みが参加者それぞれに身近に感じられた内容になりました。とよま秋祭りのような無形文化遺産・伝統家屋(有形文化遺産)が長い歴史の中で人々によって慈しみ育てられ、守られてきたという遺産の歴史を今回の講話で再確認でき、体感したことにより、伝承の必要性を改めて重要な事だと考えることが出来ました。参加者の中には初めての地・登米(とよま)と訪れた方も多く、これをきっかけに地域の活性化や交流が盛んになれば良いと望みます。			
37	共助プロジェクト	石川県七尾市	①根本泰行 ②山田寛人 ③長谷剛志 ④椿れい ⑤池辺光恵	①光と水の研究者 ②田山病院院長、循環器内科医 ③公立能登総合病院 歯科口腔外科医 ④作詞家、ボーカリスト ⑤シンキング・リン奏者	こころの宇宙が見えますか	45,844
	講演内容			事業成果		
第1部では、水、光、そして原子レベルの波動の不思議についてナビゲーター椿れいとの対話形式で根本先生にお伺いしました。第2部では、お迎えした3人の先生それぞれの現場の観点から、死について(生きるとは)お伺いしました。この企画全般を通して、私たちの“生”にとって必要不可欠なものを再認識する機会となりました。			令和6年能登半島地震以後、水、光、そして死について私たちは再認識させられました。その言語化出来なかった漠然とした不安から、既にあるものの大切さ、そして生きていることの素晴らしさを新たな観点でもって私たちに教えていただきました。これからまた実生活を送っていく私たちの意識が変わることで、ひいては地域の活力になっていければと願っています。			
38	おはなしすずめ	新潟県新潟市	伊藤明美	千葉大学、日本女子大学、白百合女子大学等非常勤講師、国立青少年教育振興機構絵本専門士養成講座講師	「物語」を通して異世代交流をする	45,841
	講演内容			事業成果		
・講師による「おはなし会」を実施し、耳で昔語りを聞いて育った世代や読み聞かせ活動をしているボランティアが子どもたちと一緒に物語体験を楽しんだ。 ・「おはなし会」実施の際には、子どもたちの感性に大人目線で負担をかけず、ありのままの反応を異世代で受け入れることとし、大人もそれぞれの立場で個々に「おはなし」を楽しんだ。 ・視覚的情報があふれている現在で、あえて耳からの物語体験をして、想像する楽しさを味わった。「おはなし会」では感じたままを声にし、お互いの感性の交流をした。			・参加の大人たちは通常の読み聞かせなどで子どもたちの感性を刺激する立場だが、講師の「おはなし」を子どもたちと同様に聞く立場で参加し、子どもたちのありのままの姿を受け入れ、物語を伝えること、素で物語を楽しむことができた。 ・今後は、対象を子どもに限定することなく、高齢者や同世代でも「おはなし」を共有しての交流をしたいなど、意欲的な感想が多数だった。これを受け、活動の場や回数を広げるという方向での継続を目指す。			

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
39	認定NPO法人仙台傾聴の会	宮城県仙台市	①水田恵三 ②鹿股英生 ③北上久也 ④布柴靖枝	①尚絅学院大学 教授 ②元高校教諭、教育相談員 ③元小学校教員 ④文教大学 教授	孤立、孤独対策の為「傾聴活動」のスキルアップ研修	令和7年6月22日 令和7年7月20日 令和7年9月28日 令和7年11月23日
	講演内容			事業成果		
<p>今年度は、メール相談員のスキル向上と相談員増員を目的に、段階的な研修を実施した。新たに入会した会員には、活動の基盤となる「傾聴」の基本姿勢についての研修を行い、相談活動に向けた理解を深めた。また、既存会員を対象にスキルアップ研修を実施し、相談態勢の充実を図った。さらに、一般住民に向けて傾聴の普及啓発を目的とした公開講座を開催し、地域における傾聴の重要性を広く伝える機会とした。</p> <p>メール相談では事例共有を通して多様な考え方に気づきが生まれ、相談活動の質の向上につながった。新入会員研修では傾聴の基本姿勢への理解が深まり、不安が軽減されたことで活動への意欲が高まった。会員研修ではSNS相談との違いを学び、対面・電話相談の重要性を再認識し、地域で支える相談態勢づくりに寄与したと考える。公開講座では傾聴への理解が深まり、地域での活動への関心が高まったほか、ボランティア希望者も見られ、普及啓発の成果が確認できた。参加者からは学びが多かったとの声も寄せられ、地域づくりにつながる研修となった。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
40	NPO法人アレルギーを考える母の会	神奈川県横浜市	①矢上晶子 ②田中里佳 ③服部陸太 ④藤原絵里奈 ⑤木村かおり ⑥山口かおり	①藤田医科大学ばねたね病院アレルギーセンター・センター長、皮膚科教授 ②和光大学OB、アナフィラキシー患者 ③早稲田大学OB、アナフィラキシー患者 ④えびなアレルギーサークルデイジー代表 ⑤アレルギーっ子の子育てママ代表 ⑥NPO法人ピアサポートFA café代表	令和7年度アナフィラキシー親子のための懇談会	45,851
	講演内容			事業成果		
<p>第1部では2人の当事者(患者)が適切な医療と周囲の理解に支えられてスポーツ選手として世界で活躍するなどの動画を上映、体験を講演。矢上晶子先生は「おしゃべりに潜むリスクなど知っておきたいアレルギーの落とし穴」をテーマに、青年期の患者が日常生活を普通に送っていても起きる、回避できるアレルギーについて、生活の場面に合わせて講演した。昼休みには矢上先生が参加者の相談に対応した。午後の第2部では「みんなで討論会 アレルギー政策・施策を進めるために患者が果たせる役割」をテーマに患者会リーダー4人が講演、地域に正しい理解を広め適切なアレルギー施策を進めるために国や自治体などにどう働きかけていってらよいかなど、具体例を交えた活発な意見交換も行った。</p> <p>参加した当事者からは「患者の話が聞けてとても良かった。治療中ですが長い道のりに少しでも光が欲しい気持ちがあります。希望の光が見えた、参加できてよかった」、また患者会リーダーからは「皆さんのパワーを感じつつ、私に何が出来るか考えさせられた」など新たな取り組みに向かう多くの感想が寄せられた。「患者・市民の医療参画(PPI)の視点から、患者会の国や自治体など行政に対して提案できる力を育てるために、アレルギーにかかわる政策を知り、取り組みの具体例を交えた意見交換を行ったことは、新たな取り組みとして意義を感じ、患者が安心して暮らせる社会、地域づくりとPPI推進の視点から、継続して取り組む必要があると感じた。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	高松第三行政区ふるさと地域協議会	岩手県花巻市	大橋謙策	元日本社会事業大学学長	住民による新たな支え合いの知恵-自助、共助、公助と地域社会の再生-	45,913
	講演内容			事業成果		
<p>「これからの社会福祉のあり方——求められる支え合い・助け合い」 I 戦後80年の社会福祉のあり方を見直し、新しい社会福祉観に基づくシステムづくり II 「地域共生社会政策」の具現化に必要な新しい社会福祉システム III 「選択的土着民」の形成と地域住民限定のNPO法人による総合的生活支援 IV 地域共生社会政策を具現化する方論としてのコミュニティソーシャルワーク機能</p> <p>今回の講演会&意見交換会を通じて講師が具体的事例を交えて話してくれた「求められる支え合い・助け合い」については、参加者が地域の福祉課題を自分事として捉えるきっかけになった。また、参加者から「今回のような著名な講師の話をもっと多くの人に聞かせたいので来年も大橋先生を呼んでほしい」との声が出ている。また、参加した方々が地元住民だけでなく、他の地区からの参加者も多く関心の高さを実感した。さらに花巻市社会福祉協議会からも参加してくれたことは、今後予定されている地域福祉活動計画の実践につながるものとする。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	木曾子育てまちづくりの会	長野県木曾郡	大原万里亜	株式会社りぼん代表取締役	いきる めぐる いとおしむ ～当たり前の生理について話そう～	45,877
	講演内容			事業成果		
<p>「生理のことを知ろう」では、講師の養護学校教諭時代に出会った生徒の話を通し、排泄の大切さ、人間らしく生きるということをお話しいただきました。また、生理用品についての法律や生理の出血量、生理痛についてなど知らなかったことをとても楽しく教えていただきました。「自分で布ナプキンを作ってみよう」では、大人子どもも自分で使うナプキンを自分で縫いました。布ナプキンが完成した子どもは早速「トイレで、大々てみて「やわらかい〜」「生理になるのが楽しみ」と話していました。「ちくちくパジャマパーティー」では、参加者と一緒に夕飯を作り食べた後にゆったりとちくちくタイムをもうけ、講師の話聞きながら気軽に質問でき、深い時間を過ごすことができました。</p> <p>親子で参加されたかたも多く、世代を超えて生理や身体のことを考えるきっかけになりました。家庭内でも自然と話せる環境となることで、親子の対話が広がりが学びが家庭にも共有され、地域全体に意識の広がるきっかけとなりました。また、親子でともに体験を共有することにより「自分や周囲を愛おしく思う」価値観が次世代へと引き継がれ、持続可能な地域づくりの基盤にもなりました。</p> <p>以下に参加者の感想を紹介します。 「万里亜さんが子どもたちにも優しく生理のお話をしてくれ、小さいながらに生理の事を学べてよかった。」 「自分の願いを込めて、自分の使うナプキンをちくちく縫うことが良かったです。子どもたちも、自分が使うフカフカの布ナプキンを自分で縫う事が出来て、生理が楽しみになったそうです。」 「布ナプキンを10年前くらいから使っていたけど、知らなかったことがたくさんあり、改めて布ナプキンを使い、自分の身体が愛おしいと心から思いました。ちくちくもはじめは、手縫いちょっとめんどうさいななんて思っていたんですが、願いを込めながら針一針縫うことでなんだか癒されてあっという間に時間が経ってしまいました。」 「パジャマパーティーはゆっくりスタートでしたが、マニアクで貴重な話も聞いて、笑いありですごくよかったです。」</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
43	くまの木里山応援団	栃木県塩谷町	谷本丈夫	宇都宮大学名誉教授	「里山のくらしと自然」案内養成検討会	45,859
	講演内容			事業成果		
<p>谷本丈夫宇都宮大学名誉教授から「造林・森づくりの歴史に学ぶ〜何のための森づくりか〜地球環境に及ぼす森林・林業の役割と展望」というテーマでフィールドワーク講演いただきました。「造林は実学であって、自然を観察することが重要で、継続性が求められています。地域オリジナルで活動していく必要があります。例えば藪になっている山は次の世代のためにならないので、くまの木里山応援団の活動を続け、地域で森を育てることが大切です。」と述べられました。フィールドワークではじめての仲山共有林内を散策し、「この人工林は管理不足でもやし状態。例えば通常の間伐をしたら、強風で残った木が折れてしまうだろう。地形により人工林の生育具合が違うことがわかります。」と木々の見方を伝授いただきました。</p> <p>・谷本先生から、仲山共有林内の人工林が手入れ不足で、葉が少なく徒長成長しており、丁寧な施業をするようアドバイスがありました。 ・広葉樹についても、境界あたりに花のきれいなコブシを植え、薪などに活用した歴史を解説いただきました。 ・講義では、団員から活発に質問があり、保育といった手入れ作業の重要性を再認識しました。 ・谷本先生から、来年度は地形の違うところで、土壌断面と植生を比較してみようという提案をいただきましたので、来年度実施したいと思います。</p>						

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	一般社団法人未来社会推進機構	長野県飯山市	①早川千晶 ②大西匡哉	①孤児や貧困児童のための学校「マゴソスクール」の共同設立運営者 ②ミュージシャン	アフリカの風のちの輝き トーク&ライブ	45,845
	講演内容			事業成果		
キベラスラム(ケニア)で活躍している早川千晶さんと大西匡哉さんをお迎えして、トーク&ライブを開催しました。 早川さんや大西さんからは、アフリカの人々の様子や現地の取組について、話がありました。早川さんは、30年間以上アフリカのケニアに在住し、活動の中心はアフリカ最大級のスラム、キベラスラムです。孤児や貧困児童の駆け込み寺「マゴソスクール」を運営しています。早川さんは、アフリカの人々が、貧困や過酷な生活の中でも、笑顔や力強く生きる力、命の輝きに感銘を受けたと話し、様子を紹介しました。 ミュージシャンで、ケニアのドゥルマ民族の村で、8年間伝統文化を学んだ大西匡哉さんは、ケニアでの修行の様子に触れながら、ケニア固有の曲などをオリジナルで演奏するライブを披露しました。その中で、行き場のない人へ生活の安心と教育が定着することにより、人々に希望が生まれ、学校を中心に地域が変わっていったそうです。スクリーンに映し出される、人々の笑顔がとても印象的でした。			ケニアのスラム街に建てられた学校で学ぶ子供たちやその家族、彼らをサポートする人たちの様子や出来事を、彼らをサポートし続けている日本人女性の早川千晶さんから聴き、また、アフリカで太鼓の修行を積み現在プロ音楽家として活躍中の大西匡哉さんのギターや歌でアフリカのリズムを感じ、早川千晶さんと大西匡哉さんのセッションにより、苦しい生活の中にあっても、早川さんの取組が、人々の笑顔を生み、地域の希望になっていくことを理解しました。人口の減少などにより心の元気を失う日本の地域社会にあって、アフリカから生きる力を感じ学ぶことにより、改めてすべての命が輝く地球の未来を共に作るという決意と覚悟を持ってたと考えます。我々は、外に住む人々の暮らしを知ることによって、自分の地域を改めて知り、考える機会になることも再認識しました。			
45	特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会	北海道函館市	小川利人	登別伊達時代村 殺陣師	市民創作函館野外劇殺陣ワークショップ	45,837
	講演内容			事業成果		
野外劇公演出演者の殺陣の技術向上を目的とし、殺陣の練習の中で、プロの殺陣師から函館野外劇の台本を元に殺陣の技術指導を受けた。			野外劇の箱館戦争場面の殺陣演技向上のため、殺陣技術の修練を行い、有料公演に耐えるレベルを達成した。又、市民ファンティアが創り上げてきた公演を今後も継続し、地域の歴史を伝えていくことが可能となった。			
46	特定非営利活動法人室蘭NPO支援センター	北海道伊達市	伊藤 将人	国際大学 GLOCOM 研究員・講師	移住定住と地域づくり	45,998
	講演内容			事業成果		
国や自治体の移住定住支援政策の解説、具体的な取り組みを紹介。移住の理由は多様、移住後の不安は交通・仕事の有無、医療体制が主。「関係人口」には出身者、居住・滞在経験の有する方も多い。地域おこし協力隊の増加など、地方はポジティブに「選ばれなおされる」傾向。 移住者や関係人口が増えることで、地域の再発見や誇りの涵養、知識移転などの効果があり、地域の担い手が増え新しい仕事やネットワーク等の効果が期待される。単なる移住者数アップではなくどう「関わりしろ」を作るか。人口対策ではなく、地域づくり戦略として位置付け、まちをつくる仲間を増やす地域政策という考え方が必要。パネルディスカッションでは函館・伊達の事例を共有。担当者の熱意や寄り添いも重要との話や、移住政策の成果が見えないことへの対策などアドバイスがあった。			中間支援団体の研修の一環として行ったため、移住定住に強い興味のない参加者が多かったが「地域づくりに直結していることが分かりこの分野についての学びが必要と感じた」と感想があった。後日、講師の著書を購入し学びを深めているとの声もあった。 移住定住政策に関わっている団体職員は具体的な事例についてのアドバイスをもらうことができた。移住政策は外への情報発信などの働きかけが多いが、地域内の理解を深め地域住民が自ら地域のPRをすることにつながるよう地域内での情報共有も必要というアドバイス等、移住定住政策分野に限らず参加者の今後の業務に生かされると感じた。総じてよりよい地域づくりに生かされる講義となった。本講義がきっかけで函館での1月のイベントに伊藤講師が招聘され、引き続き学んでいくきっかけづくりとなった。			
47	地縁法人錦生自治協議会	三重県名張市	磯部 由香	三重大学名誉教授	文化伝承 家庭料理大集合	46,054
	講演内容			事業成果		
(磯部 講師)「五感を使ってたべること—いつもの食事を、少し豊かにするヒント」をテーマに 1. おいしさをつくる「五つの感覚」 ・視覚(目)・聴覚(鼻)・味覚(舌)・触覚(口・手)・聴覚(耳) これらが合わさって、「ああ、おいしい」「満足した」という感覚が生まれます 2. 重要なポイント:すべては「脳」でつながる 3. 五感を使うこと 満足度がアップする 4. 今日からできる簡単なコツ「最初の一口」だけ意識してみよう について資料とパワーポイントを使って講演をいただきました。 (大川講師)「日本人の料理の味わい方」をテーマ日本人の料理に対する味覚は、諸外国の人々とは違う。 基本形は「五味」①酸②甘③鹹④辛⑤苦 ◎旨味・五味のそこに、日本独自の「旨味」が加わる。 [五味+旨味]だけでない、日本の料理に対する感覚 五味+旨味+四季の変化も含め五体を感じる総ての風味まで含む			26名、3団体から35品の家庭料理を出品頂く事ができました。 講師の講演後、休憩を入れる間に会場を模様替えしました。 家庭料理が運び込まれテーブルに並べられた後、各出品者から料理紹介をして頂きました。終了後参加者は一斉にテーブルを取り囲み、色とりどりの家庭料理をカメラに収められていました。その後、全員で試食をしました。郷土食を継承していくことの大切さを痛感すると共に地域交流も図られました。最後に磯部・大川講師から講評を受け食生活の大切さを学びました。両講師からはいつまでも続けていただきたいと伝えられました。			
48	竹林活用プロジェクト CHIKURIN	長野県飯田市	原 功	東京都放課後児童支援員 学童保育支援員	①「飯田下伊那地域特産の源助かぶ菜の栽培と漬物加工に取り組む」 ②「醱酵とは…醱酵のしくみと自家製味噌づくり…」	45,942
	講演内容			事業成果		
長野県指定特産野菜の源助かぶ菜の漬物を栽培して、源助かぶ菜の漬物を加工してみたいという地域住民が参加してくれた。源助かぶ菜の栽培農家が、飯田下伊那地域ではほとんどいないため、栽培と漬物加工のノウハウが伝承されていない。原講師から、「わからないことがあったら遠慮なく電話してください」の一言があった。 自家製味噌を作りたいと思っている人がかなりいるはず。原講師から、家庭にある鍋を使って簡単に味噌をつくる方法の説明があった。また、麹菌、酵母、乳酸菌等と醱酵の仕組みをわかりやすく説明してくれた。			1)源助かぶ菜の栽培と漬物加工のノウハウは参加者に確実に伝わったと思われる。また竹炭と竹チップを肥料に加えると成長と味が良くなるということを説明し、竹林活用プロジェクトは、地域起こしとして栽培した源助かぶ菜の買い取りの予定があることを伝えた。地域特産野菜の栽培を地域づくりとして取り組む方向性に自信を持った。 2)参加者は、味噌の醱酵の仕組みを理解してくれた。参加者に、原講師の自家製味噌(1年もの、2年もの、3年もの)を試食してもらった。参加者は、かなり感動してくれた。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
49	大崎自然界部	宮城県大崎市	①船橋玲二 ②若見正幸 ③若見真羅乃	①NPO田んぼ 代表 ②③みやぎ北ユネスコ協会 会員	アカンボ見つけ隊	45,878
	講演内容			事業成果		
大崎耕土の生物多様性や自然環境、気象変動を身近な「トンボ」を通して考える。調査票を用いながら、トンボの違いを観察、体験活動から見えてくる環境保全の大切さを、環境の重要性を考える。 ・アカンボの識別の仕方(アキアカネ、ナツアカネ、オス、メス、生態の違い等) ・当日は、例年より暑い日が続いていたのと、草刈をされていたためトンボの数が非常に少なく、環境の変化が虫たちに及ぼす影響、環境保全の重要性が分かった。			アカンボの識別の仕方を話し合いながら、大崎耕士だからできる「環境教育」を子供たちと活動しながら、親子共に考えることができた。 後日、バッタ採りも行い、生きもの多様性も学んだ。 親子で、生きもの命と向き合い、生物多様性を探求できたことはとても良かった。この地域ならではの魅力を引き出し、楽しみながら学ぶことができた。			
50	木曾星の会	長野県木曾郡木曾町	①新乃 悠 ②正澤 典子 ③古井 桂子	①東京大学木曾観測所 助教 ②上松中学校 教諭 ③蘇南高等学校 教諭	天の川祭りin ふるさと体験館	45,920
	講演内容			事業成果		
2025年9月20日18時から「ふるさと体験木曾おもちゃ美術館」で夜間イベントを実施した。飯尾会長の開催宣言に引き続き、美術館としても初めての試みである第一部μのコンサートを行い、星にちなんだ演奏をしていただいた。第二部は、当会の設立以来関係の深い東京大学木曾観測所の新納悠(東京大学助教)氏による講演を行った。木曾観測所の設備や観測対象、重力波、宇宙の電波研究について平易に解説していただいた。悪天候で屋外観望は中止とし、代替として昨年度会員が木曾で撮影したオーロラの観測を紹介した。全体の運営は館スタッフと連携し、安全確保に留意した。広報はチラシやホームページで呼びかけたが、当日は悪天候と重なり、参加者は23名と少なかった。			悪天候で観望は中止となったが、地域づくりの観点で次の成果を得た。第一に、研究者講演により木曾観測所の取組への理解と関心が高まり、天文台と地域の連携可能性が具体化した。第二に、夜間未活用だった美術館で音楽と科学解説を組み合わせたプログラムの有効性を検証し、夜の集客企画の有望なモデルを提示できた。第三に、参加者の星空環境・光害への関心が喚起され、晴天時の天の川観望への期待と再来訪意向が生まれた。			
51	日本語学習支援さくらの会	長野県諏訪市	①吉開 章 ②岩波 香野子	①一般社団法人やさしい日本語普及連絡会 ②やさしい日本語認定講師	「やさしい日本語」研修会	45,914
	講演内容			事業成果		
行政・教育・企業関係者が外国人や地域住民に、日本語でわかりやすく・正しく情報を伝える・力を身につけるための講義をした後、やさしい日本語が身につくよう参加者全員でワークショップを行った。			2023年3月出入国在留管理庁は全国の自治体に向けて「多文化共生地域づくり」の推進に関する通知を発出しました。諏訪市においても外国人住民の増加が進んでおり言葉の壁が課題となっております。今回の事業を実施して「やさしい日本語」を学び地域全体で共通認識を深め、安心して暮らせる地域社会の実現につなげていくことができました。			
52	NPO法人鳴子の米プロジェクト	宮城県大崎市	①結城登美雄 ②大葉 由佳 ③中川 恵	①民俗研究家 ②フリーアナウンサー ③山形県立米沢女子短期大学・准教授	食と農の大切さを考え、共有、発信する	45,997
	講演内容			事業成果		
記念講演では、民俗研究家 結城登美雄先生から「食べるとは生きること」のテーマで講演いただき、農だけで考えず食と一緒に考える必要性を指導した。1日目のパネルディスカッションでは「米プロジェクトPart1～若者トーク～」と題して、中川恵准教授がこれまで米プロジェクトに関わった5人の学生等若者とのトークを進行及びコーディネートし、米プロジェクトに関わり現在まで交流を続けたいと思える魅力など理由を話し合い、関係人口づくりについて意見交換した。2日目のパネルディスカッションでは「米プロジェクトPart2～つくり手・食べ手・支え手トーク～」と題して、ライター西大立目祥子氏が、これまで米プロジェクトに関わる7人とのトークを進行及びコーディネートし、山間地で米を作るつくり手の思い、高価格の米の予約を継続する食べ手の思い、この取り組みを伝えている支え手の思いをそれぞれの視点から聞き出し、信頼づくりのポイントを話し合った。			現在、米制度や人口減少による生産力の減少、環境変化など、令和の米騒動を引き起こし、米が高い安いと人が右往左往し、食の危うさが問われているが、これまで山間地の鳴子で、地域で支える農業(CSA)を実践し、再生産可能な米備ゆきむすびを食べ手が20年継続して支え続ける「鳴子の米プロジェクト」を振り返り、NHKドラマとなった「お米のみみだ」、総合プロデューサーである結城先生の哲学、若者や支え手を当事者同士で大切なことは何かを話し合い、全国からの参加者と学び合いを行うことができた。国内で問題となっている農と食が分離している現在、今後、地域での食と農を守り、次世代につなげるために、つくり手と食べ手が向き合い、話し合い、さらなる交流の必要性を共有することができた。			
53	NPO法人サポートC	長野県茅野市	①佐藤信 ②八幡 香 ③有賀 友美 ④石城 正志	①演出家・劇作家、個人劇団「鳴座」主宰、劇団黒テント 演出部、若葉町ウォーフ代表 ②(特非)サポートC・理事長、(特非)信州協働会議・理事長、諏訪圏域子ども応援プラットフォーム・運営委員、(一社)共に咲く花の会・代表理事 ③なし ④諏訪圏域子ども応援プラットフォーム代表、(特非)末広プロジェクト代表、元教員・長野県高遠高校長、諏訪清陵高校長等を歴任	今考えよう。子どもがもっと輝くために私たちができること	45,892
	講演内容			事業成果		
パネリスト・コーディネーターの4者それぞれの活動や日常の中で子どもたちと向き合い感じていることを語ってもらった。石城氏は学校の教育現場や、中学生の居場所づくりに取り組んだ経験の中で、八幡氏は子ども食堂はじめ様々なジャンルでまちづくりの活動にかかわる中で、有賀氏は保育園児、小学生、中学生の5児を育てる日常や、異質と食育の取り組みを通して、佐藤氏は劇作家・演出家として、演劇をつくり子どもたちに鑑賞の機会を届けてきた立場で、4者の話から子どもの置かれている現状と、子どもを取り巻く大人の様々な価値観が浮かび上がり、根本的な価値観が異なる世代が「交代」するのではなく「共存」すること、フェスティバル(祭り)を継続する中で継承されるものがあることなどが提言された。			アーティスト、子ども食堂や子どもの居場所づくりにかかわる人、子育て中の主婦など、年代(30代から80代)、社会での立ち位置や役割も異なるパネリストから、様々な視点の話を聞くことができた。参加者も全国から舞台芸術関係者や子どもにかかわる活動に取り組む市民と幅広く、それぞれが、今子どもたちのために何ができるかを考え深めるきっかけを作ることができた。また、パネリスト、参加者ともに本事業で新たな人脈ができ、今後の活動の幅がぐに期待が持てる。今後、今回登壇したパネリスト、地元参加者を軸に、諏訪圏でのあそび・舞台芸術体験を手法とした地域づくりを継続して行うネットワーク・組織づくりを行う。			

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
54	傾聴ボランティアサークル 梨〜風	宮城県利府町	加藤 慶子	特定非営利活動法人仙台傾聴の会 副代表理事	傾聴ボランティア養成講座 初級コース	令和7年8月21日(木) 令和7年8月28日(木) 令和7年9月18日(木)
	講演内容			事業成果		
1日目は傾聴活動の基本に関する講座。「傾聴とは」、「傾聴の姿勢」などについて説明があった。話し手の気持ちに寄り添った相槌、聞かれた質問や話し手の言葉の繰返しとまとめ、7:3の対話、話し手の表情にも注意しつつ聞くという「傾聴モード」の説明もあり、説明を受けロールプレイングが実施された。				医療施設の受付で仕事を長くしていた方が受講され、様々な質問や悩み、心配事などに答える言葉が出なかったが、講座内で取り扱った傾聴モードを知って、今後は身近な人に活用したいとの感想が得られた。		
2日目は傾聴活動のロールプレイング。実例に基づき3人グループで実施。話し手は①成長の遅い用事を気にする母親②施設で誰とも会話が無く帰りたいがお金を息子に取られて帰れないと思っている男性等、数例を10分間ずつ、観察者、話し手、聞き手の感じたことを発表した。				当団体のメンバーでも一部受講した者がいたが、初受講だったメンバーからは傾聴の難しさ、特に傾聴体験を通して傾聴モードになることも難しさがわかったとの意見も得られた。		
3日目は認知症の講座。講師からは「認知症は病気である」「できないことが多い認知症でも感情は豊かに残っている、人間としての尊厳を忘れず、残っている機能を生かして、地域でその人らしく生活できるように地域で支援していくことが大切」という説明があった。				また、他地域で傾聴活動に取り組んでいる方の参加もあり、メンバー間の交流や活動に関する情報交換などを目的に交流会を開催する運びとなり、イベントを通して地域間交流の環を広げることができた。		
				加えて、個人宅への訪問傾聴が長年の目標だったが、利府の社協にも当会の活動をHPに掲載してくれたり、民生委員との連携も提案いただいたり、活動の幅が拡大できるものと期待している。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
55	特定非営利活動法人なんぶねっと	青森県階上町	①山崎 泰介 ②上野莉歩 ③鈴木美朝 ④木村優哉 ⑤鈴木麟太郎	①社会福祉法人市川市社会福祉協議会 事務局長 ②Cafe&HASH BAわたしの素 ベースオーナー ③八戸ゲストハウスセノイエ 喫茶ベバナ オーナー ④一般社団法人わのまち代表理事 ⑤元東京都杉並区児童館職員 APPLEBOY店主	現代社会で生きる力を育む青年期	45,998
	講演内容			事業成果		
八戸圏域で活動するボランティア市民活動団体、NPO等の横のつながり、ネットワークを構築することはもちろん、市町村をまわり、『研修会開催』という手法でその地域の行政、関係機関とのつながりを広げることを目的に、『現代社会で生きる力を育む青年期』をテーマに階上町において開催。今回は研修会のプログラム形成を始めるにあたり、階上町に確認したところ、町内に把握された団体等がないことから、直接こちらで情報を得ていたわたしの素 ベースの上野氏を主として設定。テーマに沿った講演を市川市社会福祉協議会の社会福祉士でもある山崎泰介氏に、事例発表として階上町の八戸市でゲストハウスなどを展開する鈴木美朝氏の2名による発表の第1部とパネラーに五戸町ユースセンターなどを展開する木村優哉氏と人口減少における関係交流も話題にあることから児童館職員で都市部の視点も持つ鈴木林太郎氏を加え、パネルディスカッションの第2部の構成で開催した。				階上町で把握されている団体の情報もないことから平成26年度の開催時もそうであったが、行政や関係機関と地域活動団体・個人とのつながりが弱いと考察され、地域内での連携とともに広域での連携も必要であればネットワークを活かして動く準備をしておく、地域における中間支援組織といわれる社会福祉協議会等も年々中間支援機能が低下していることを見受けられ、今後さらに市民主体の実行力とともにネットワークにおける相互支援体制を構築していくことが重要だとわかる結果となった。ただし、中間支援を行う専門部署や機関は必要であり、八戸圏域における行政や関係機関と今後情報共有しながら現代社会の状況に対応した中間支援組織の設置に向けて動いていければと再認識できた。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
56	特定非営利活動法人 放課後こどもクラブBremen	宮城県石巻市	宮澤 崇史	湘南ベルマーレ レーシング チーム監督	自転車の魅力を伝えよう	45,941
	講演内容			事業成果		
宮澤崇史氏を講師に迎え、「自転車の魅力を知ろう」と題した講演会を開催した。自転車が排出ガスを出さず健康づくりにも寄与することや、SDGsとの関わり、安全に乗るには技術と意識の両立が重要であることを学んだ。雨天だったが、自転車を愛好する地域の関係者に集まっていた。石巻を自転車で楽しめるまちにするための課題について意見交換が行われた。				参加者アンケートでは、「自転車にはいろいろな魅力がある」「楽しみ方がたくさんある」との声や、二人の掛け合いが話に引き込まれたという感想が寄せられ、84%が「大変良かった」と回答した。来年も開催してほしいという声もあり、参加者同士で自転車の楽しさや地域での活用について話し合う貴重な機会となった。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
57	一般社団法人ママとね	静岡県三島市	吉成 信夫	中部学院大客員教授、元・みんなの森 ぎふメディアコスモス 総合プロデューサー、東海国立大学機構参与、明石市本のまち推進アドバイザー	賑わいを創出する図書館 ～本を通して人が繋がりが街が元気になるには～	46,005
	講演内容			事業成果		
本講座では「ぎふメディアコスモス」元総合プロデューサーの吉成信夫氏を講師に迎え、「賑わいを創出する図書館」をテーマに講演が行われた。メディアコスモス就任前に、岩手県での17年間に亘って3つの公共文化施設の運営に携わった経験を踏まえて、ぎふメディアコスモスでは「まちにひらかれ、コミュニケーションする図書館」を目指した取り組みが具体的に紹介された。建築特性を活かし、「子どもの声は未来の声」という理念を掲げることで、多様な世代が安心して集える場を実現した実践や、市民参加型企画、シビックプライドの醸成をひきだす地域密着のワークショップ、子どもや若者を主役にした多彩な活動事例が語られ、図書館を単なる本の貸出しの場ではなく、「人とまちをつなぐ屋根の付いた公園」と捉える考え方が示された。				講座では「コミュニケーションする図書館」というこれまでにないコンセプトの施設をゼロからスタッフたちと作った苦労が語られ、ビジョンを持つこと、そしてそれをスタッフと共有し、具体的な企画に落とし込み実践する大切さを学んだ。また、ぎふメディアコスモスで取り組まれた多数の企画は、同じように、まちと人を繋ぐ場を創出すべく地域で活動している参加者にとって、大いに参考になる事例であった。とくに、住民参加の企画や、子どもの自主性をはくむ企画は、今後も継続的に図書館と関わる息の長い活動となっており、参加者それぞれが今後の活動に活かしていくと期待される。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
58	NPO法人ルネッサンスファクトリー	宮城県加美郡色麻町	①齊藤 太一 ②相田 一成	①株式会社ヒストリック代表取締役 ②合同会社妖怪屋 代表	歴史・妖怪伝説を通した地域おこしを考えるシンポジウム	令和7年11月29日
	講演内容			事業成果		
合同会社妖怪屋・相田一成氏からは、地元の妖怪を通したまちづくりをしている地域の先行事例を紹介していただき、大切なのは小さな一歩でも行動することだとアドバイスをいただいた。株式会社ヒストリックの齊藤太一氏からは、歴史はどの地域にもあり、歴史で地域を盛り上げることはシビックプライドの醸成にもつながり、地域への愛着も生まれるとのアドバイスをいただいた。両氏共通のアドバイスは、地元の歴史や伝承は、地域にとっても多くの良い効果があることから、知らないのは大きな損失であり、語り継いでいくことはとても重要とのことであった。				今回は、町内にある「河童伝説を語り継ぐ会」の方々にもご参加いただき、セミナー終了後も、講師たちと情報交換をしていた。相田氏から、お金をかけず、市民活動レベルでできる地域の事例を調査、掲載を受けていた。また、齊藤氏は、事前に色麻町を訪れ、町内の史跡を巡り、町史に詳しい町役場の担当者へのインタビュー等を行っており、その中で着目した、鎌倉期初期に色麻町にいたとされる「小萩の方」というキャラクター化し、クリアファイルを製作した。今後は、クリアファイルを使い、色麻町の新キャラクター「小萩の方」を町民有志の手により広めていくこととなった。		

令和7年度 地域づくり団体活用支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
59	株式会社飯島	宮城県大崎市	尼丁隆吉	シンガーソングライター	認知症ケアとして、回想とエピソード記憶、高度な音楽文化に触れる	45,928
	講演内容			事業成果		
施設敷地内にステージを設置し音響設備は当日早朝に準備した。尼丁様より挨拶を頂き、利用者様や近隣住人の方々との交流が始まる。その後、自身の曲やカバー曲を数曲披露頂く。高齢者の方々にも聴き馴染みのある曲を演奏して頂き、一緒に口ずさむ方もいらした。施設では、豚汁やポップコーン、ジュースなどを準備し利用者様や地域の方々美味しく召し上がっていただいた。また自家栽培の野菜のお渡しも行なった。			地域の方で、動画配信サービスで事前に聴いてきました、という方もいらした。地域の方や隣接する介護施設の職員、利用者様も来てくださり、交流を図る事ができた。当施設の利用者様、歌声に涙する方もおりエピソード記憶として残って頂けたと感じる。また、自家栽培の野菜や生みたて玉子の提供で地域の方々には喜んで頂けたと思う。事前にチラシで宣伝していた為、地域の方が当施設にさらに関心を持っていただき、近隣の方々同士を掛け合って足を運んでいただいた。そのようなイベントに恩恵を持ち、普段自宅からあまり外へ出る事が少ない方からも、活気が出て地域の方々や交流する事も、小さい町ながらの活性化へ繋がっていくと思われる。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
60	支え合いネットワークなんぶ	青森県三沢市	①鎌田敦子②菊池三十義③渡部てつ④高谷津草⑤飛嶋敏⑥井澤淳⑦阿保千枝⑧種市衣理⑨山本耕一郎	①コープらしのたすけあいの会 本部事務局②ボランティアむつの会 事務局③ボランティアむつの会 会長④自主防災会あおぞら組 代表⑤七和まちづくりネットワーク 専務理事⑥社会福祉法人千年会 暮らし創造課長⑦NPO法人子育てオーダーメイド・サポートこども理事三沢チーム代表⑧NPO法人子育てオーダーメイド・サポートこども 三沢チームあそびばスタッフ⑨青森県八戸市を面白くする市民集団まちぐみ 組長	ボランティア市民活動フォーラムあおもり『青森県全域ネットワーク横のつながりの重要性』	45,906
	講演内容			事業成果		
青森県全域を6ブロック(東青・下北・西北五・中弘南黒・上十三・八戸圏域)に分け、各ブロックから様々な分野で活動するボランティア市民活動、NPO、地域づくり団体から活動発表を通して、活動内容の共有はもちろん、地域課題の解決に向けたそれぞれの取り組み方法や活動のノウハウ、さらには地域を想う志やパッションを共有し、この場をつなげる機会として、今後の連携や協働につなげていくために毎年度県内一か所で行って同一に会す、その一つの場としてフォーラムという形態で開催。			青森県内のボランティアや市民活動団体、NPO等の協議組織であった青森県ボランティア連絡協議会が令和2年に解散した今、それに代わる組織が無い状況の中で、ゼロから民主主体で組織化し、「青森県をよくしたい」「幸せに暮らせる青森県をつくろう」と自主的自発的に思いや志を同じくしてこうした協議組織の立ち上げから、交流や情報共有の場の設定をし、開催したことは成果として大きく、これを機にこのネットワーク、つながりに新たに加わる方や県内に広がるきっかけとなったことが成果といえる。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
61	認定こども園NPO法人山の遊び舎はらべこ	長野県伊那市	西村 信子	映画出演者	第18回子育てを考える集い	46,054
	講演内容			事業成果		
てんかんと知的障がいを抱えた「奈緒ちゃん」と彼女を支える「人々」を追ったドキュメンタリー映画「大好きー奈緒ちゃんとお母さんの50年〜」(いせフィルム)を上映しました。「奈緒ちゃん」の母である西村信子氏と、いせフィルムの伊勢監督にもお越しいただき、対談という形で講演会を併せて開催しました。当時そして今の製作秘話、子育ての話、現代の社会問題についてもお考えをお話し頂きました。			50年という歳月をかけてハンディを抱えた我が子と向き合い、寄り添い続けてこられた思い、共に歩まれてきた家族への思い、仲間と自ら地域作業所を立ち上げ、我が子のみならず地域の障がい児にも向けられてきた、西村氏の眼差しに触れる機会となりました。子育て、家族の在り方、そして、まだまだ日本の中では分離され、交わることの少ない「障がい」と呼ばれる人々に思いを致し、多様性を誰もが歓迎し、他者も自分も尊重できる共生社会の実現に向けて、何ができるのかを、地域の方々やハンディのある子どもに関わられている皆さんと共に考える機会となりました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
62	NPO法人街・建築・文化再生集団	群馬県昭和村	①矢島 宏雄②塚原 秀之	①元千曲市教育委員会文化財センター所長②長野市埋蔵文化財センター係長	『全国に誇れる養蚕集落景観を村づくりに活かす』一群馬県昭和村の豊富な歴史遺産・養蚕集落の重伝建選定を目指す	令和8年1月24日 令和8年1月25日
	講演内容			事業成果		
24日の見学会はRAC参加者30名、村民5名、計35名の参加となった。村内の案内は、昭和村の集落景観を愛する会代表高橋宏明さん、同役員櫻澤音さんとRAC中村武の案内で、糸井、貝野瀬、生越の養蚕集落を見学した。この三地区には幕末から明治期にかけての、かつての茅葺き、板葺きの大規模養蚕民家が多数残存している。養蚕民家の他、地域内に残る歴史的建造物として小高神社、武尊神社、諏訪神社本殿、割拝殿形式の舞殿を見学した。ご参加頂いた矢島講師からは、商家町である稲荷山重伝建地区とは異なった景観をご覧頂き、重伝建選定に至る過程の指導を受けた。25日のパネルディスカッションは、最初に矢島講師から千曲市稲荷山地区の国重要伝統的建造物群保存地区選定(以下、重伝建地区選定とする)へ至る活動、選定後の様々な問題点のご報告を頂いた。塚原講師からは長野市戸隠の重伝建地区選定後の取り組みと現在進行している「歴まち法」の適用で可能になった事業についてご報告頂いた。両氏の報告はこれからの昭和村での取り組みに貴重な示唆となった。午後のパネルディスカッションは、米山RAC理事による全国各地で重伝建地区での活動事例報告をおこなった。昭和村高橋村長、愛する会の兵藤さんからは、昭和村の意識の現状と、これから目指している重伝建選定と歴史的建築物を活かしたまちづくりについての思いを話された。			私たちは、各地の絹遺産を地域の歴史、統文化、継承すべき文化遺産として、地域活性化の切り札として活かす手立てを、地域間交流を通じて知恵を出し合い、創り上げることを目的としている。今回の研究集会は、昭和村の養蚕集落の重要伝建地区選定を目指し、昨年7月に開催したキックオフ・フォーラムで一步を踏み出し、重伝建選定に向けてその具体的な手立てを見いだすことを目的としていた。矢島氏、塚原氏の最新の現実的な取り組みであり、昭和村では受け皿である市民活動も芽生えており、村に積極的に働きかけている。講師両氏の報告はこれからの昭和村にとって貴重な示唆であったと思う。当日は村民、行政の積極的な参加を得て、講師の講演と議論の中から、一步踏み出す方策が見えてきたと考えている。次年度に向けた活動に弾みのついたフォーラムであった。			